

# 景観デザイン・この10年の変遷(前編)

Transition of the Urbanscape Design for Recent 10 years (the first part)

伊藤豊嗣

Toyotsugu Itoh

## はじめに

2010年、名古屋造形大学紀要第16号に「名古屋港景観アドバイザーの経験を通して」を執筆・掲載した。それから2年後の2012年3月、13年間務めた名古屋港景観アドバイザーに区切りをつけることになった。これを機会に、近年の国内外の景観デザインに関する変遷を振り返ろうと考えた。前回の執筆では、愛知県名古屋市の港地区に限定した内容だったが、それを超えて景観デザイン全般に関わる問題について広く考察したい。

景観の問題は、地域と全国、また海外の国や地域、あるいは世界全体との関係など、関わる場の範囲も様々である。そして、政治、経済、社会の諸相の中で受ける影響も様々で、多岐にわたる視点で捉えなければならない。

今回は2000年代に入ってから10年あまりの中でも、その前半の数年の、全国および自身が関わる地域(東海、愛知県、名古屋市)の社会の動き全般と、屋外環境や景観関連の問題について、新聞に掲載された記事から特徴的なものをまとめたい。次回、後半をまとめ、あわせてこの間の変遷について考察する。

この10年あまりの中の、特に前半の社会の大きな流れはどうであったか。海外では、その冒頭の2001年9月11日にアメリカ同時多発テロがあった。発展を遂げた都市の中で起きた信じがたい事件は、世界に強い衝撃と不安を与えた。2003年には、大量破壊兵器保持疑惑のイラクへアメリカを中心とした有志連合が侵攻し、サダム・フセイン政権を倒した。また、東南アジアや北アメリカを中心に新型肺炎SARSの感染が世界的に拡大、人々の日常生活に大きな影響を与えた。経済・産業では、中国が目覚ましい発展を見せ、その後の北京オリンピック、上海万博へとつないでいくことになる。

国内では、1990年代初頭のバブル経済崩壊により、「失われた10年」といわれる停滞期があったが、その状態は2000年代に入ってから全国的に続いた。ひととおりの成長を遂げて、かつてのような大きな伸びが期待できない「成熟社会」になり、これにどう対処していくかが課題とされた。

そんな中で名古屋圏は、自動車関連をはじめとした産業が手堅く、全国でも稀に好調な状態にあり、その勢いで2005年の大型プロジェクト(中部国際空港開港、愛知万博開幕)に向かっていった。名古屋駅前の高層ビル化、都心部での商業施設の新設ラッシュなどにも、その勢いによるところが見られた。

## 海外の状況から

〈2001年〉

・9月11日、アメリカ、ニューヨーク他で同時多発テロ。／9月

〈2002年〉

・アメリカの新車販売、2001年の日本車のシェア最高の26%に。／1月

・中国、沿岸部を中心に消費ブーム。自動車、パソコン、DVD、マンション。／5月

・アメリカ、ニューヨーク・ハーレム地区、アポロ劇場の修復、美術館やデパートなどの再開発計画。／7月

・アメリカ・ポートランド市の事例。車社会からの脱皮を図る。都心の高速道路を廃止し、公園化。公共交通の無料化、路面電車を導入することで、中心部への自動車流入の減少、駐車場不足の解消を促し、事業所の進出、商店街の活性化へ。市民税は相対的に高い。／7月

・電子、情報機器などのハイテク分野でも中国の生産シェアが急進。／8月

・中国のマイカー熱が高まる。市場100万台規模に。ナンバープレートが入札方式で競りに。／10月

・ニューデリー国連気候変動枠組み条約締結国COP8。先進国と発展途上国間の主張にずれ。削減義務を果たしていない先進国、経済発展優先の途上国。／11月

・2000年の欧州連合(EU)の温暖化ガス削減は3.7%。京都議定書が2008—2012年8%削減と義務づけた目標の半分を達成。／11月

・トヨタが10月から中国国内での生産を開始、販売も出足好調。しかし、早速中国メーカーによるコピー車も登場。／11月

・ホンダが意匠権を登録して中国で発表したスクーター、台湾メーカーの製品と類似していることから、中国の法廷に訴えた。各部のデザインについて主張したが、「全体の印象」を重視してこの訴えは却下された。／11月

〈2003年〉

・イギリス、ビートルズの「アビーロード」の写真を使ったポスター、ポール・マッカートニーの手にあったタバコが禁煙運動団体の圧力でコンピュータ処理で消された。／1月

・アメリカ、ブッシュ政権は、この2年の中で火力発電所や製油所が出す汚染物質を規制してきた大気浄化法を緩和、国家エネルギー政策にアラスカの野生生物保護区での油田開

発を盛り込むなど、環境軽視の方向へ。／1月

・アメリカは対イラク攻撃に踏み切るか。「大量破壊兵器の廃棄が目的」というが、国内の石油がいちばんの関心との疑念。

／1月

・アメリカ、国連安全保障理事会で、イラク政府の査察妨害、兵器隠蔽、テロ組織の証拠を提示。安保理決議違反を印象づけた。／2月

・トヨタ自動車、中国の自動車メーカーである吉利汽車がトヨタとよく似た楕円のマークを使用したことに対し、商標権を侵害したとして、商標の使用差し止めと損害賠償を求め訴訟を起こした。／2月

・チリ領イースター島のモアイ像は、1722年の島の発見以降、ヨーロッパ人の破壊、部族間での争いで多くが倒れた状態。この夏、ユネスコの働きかけ、日本政府の資金援助のもと、修復事業に取りかかる。／2月

・中国、北京郊外の老朽化した国営工場群跡地に、ギャラリー、ショップ、カフェからなる芸術家村が出現。／3月

・アメリカ、同時多発テロで崩壊した世界貿易センタービルの復興指針になる国際コンペで、建築家ダニエル・リベスキンド氏の案に決定。世界最高の尖塔案が批判も受けた。／3月

・3月20日、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ポーランドなどの有志連合によるイラク侵攻が始まる。／3月

・中国、台頭する中産階級。2008年の北京オリンピックを控え、北京市東部に高層企業ビル群「セントラル・ビジネス・ディストリクト」の建設ラッシュ。北京市内の自動車保有台数は2002年に198万台に達した(個人所有は70万台を突破)。週末に自動車で校外型のスーパーでまとめ買いをする米国型生活スタイルが定着し始めた。／3月

・イラクでの地上戦、米英軍の思惑どおり進まず誤算。春先の砂嵐もその要因のひとつに。／3月

・アメリカ、アカデミー賞で宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」が長編アニメ部門賞を獲得。／3月

・イラク、バグダード陥落、サダム・フセイン政権崩壊。／4月

・東南アジア、カナダ、アメリカを中心に世界で新型肺炎、重症急性呼吸器症候群(SARS)の感染拡大。中国・北京の日本人学校では生徒の半数が帰国。／4月

・イラク、戦後復興のカギは世界第2位の埋蔵量の石油開発。戦争に勝利したアメリカは復興事業を自国企業に次々と発注、石油輸出の仕組みも変えようとしている。／4月

・パリ・コレクションでイギリスのブランド「クレメンツ・リベイロ」が発表した作品に対し、日本のグラフィックデザイナーである田名網敬一氏が「自分の作品の無断使用」と指摘。「クレメン

ツ・リベイロ」側が著作権を侵害したことを認め謝罪。昨今の「日本のポップカルチャー人気」が背景にあったのでは。日本人自身が日本のデザインを正当に評価し、海外での盗用にはしっかり目を光らせておくことが必要。／4月

・「模倣大国から知財大国へ」。中国が模倣品を取り締まるだけでなく、先端分野で自ら特許を押さえ、収入を得ていく戦略に乗り出した。基本特許を押さえないと、巨額の特許料が国外へ流出。世界の工場としての地位まで揺らぐという危機感から。／4月

・ハローキティなど日本発のキャラクターが海外で人気に。サンリオは国内の売り上げを年々落とす中、海外では順調な伸びを示している。キャラクターに日本的な趣向がなく、どんな壁もすり抜けるのが特徴。ディズニーキャラクターに比べ、高い年齢層に対応できるのも強味。／4月

・トヨタ自動車、ニューヨーク国際自動車ショーで新型プリウスを展示。減速時のエネルギーをより効果的に回収する設計に。／4月

・アメリカ、個人消費の低迷を反映して、日本の100円ショップに相当する「1ドルショップ」が好調。2社で2003年度中に1,000店以上を出店する計画。／5月

・中国でマイカー保有台数が1,000万台を突破。販売価格の低下と富裕層の登場で個人購入が急増。／5月

・イラク、サダム・フセイン政権崩壊後の変化。シーア派は人口の6割の多数派だが、フセイン政権下で弾圧されてきた。その残虐さが明らかになるにつれ、シーア派国民の嫌悪感が高まっている。一方、崩壊後の政情悪化や経済混乱で、旧体制へのノスタルジーがあるのも事実。／5月

・中国・広東省広州市に輸入した家電専門のリサイクル村がある。政府が国内産業保護のために廃棄家電の輸入を禁止していても取り扱い業者が横行。日本からの金属スクラップの中に大量のゴミをまざれこませていることもあり、中国側のいらだちが募る。／6月

・開幕を1年後に控えたギリシャ・アテネオリンピック。新築・改築している施設はいまだ完成したものがゼロ。「のんびリズム」の気質、工事をすると遺跡につきあたるのもお国柄。／8月

・アメリカ、ニューヨーク市条例と州法で喫煙規制を強化。世界で最も厳しいものになり、批判も。／10月

・アメリカ、ニューヨークの同時多発テロの追悼施設、ツインタワー跡に二つの大きな池をつくり、タワーがなくなった「欠如を映す」案に決定。／10月

・フランス、パリ・セーヌ川のスガン島に安藤忠雄氏設計のピノ美術館、2007年の開館を目指す。／11月

〈2004年〉

アメリカ、ニューヨークのタイムズスクエアの一角にホームレス、エイズ患者、低所得者のための施設「ザ・タイムズ・スクエア」ができて10年になる。NPOによる運営だが、老舗ホテル「コモン・グラウンド」を買収し改装。かつては人々の生活も荒れた一画であったが、地域再生の効果をあげている。／7月

・中国、偽ブランドを扱う北京の秀水市場、上海の襄陽路市場が、ともに立ち退き要求や土地賃貸契約切れで移転・廃止に直面している。どちらも外国人観光客の一大名所になっていた。

・アメリカ、ニューヨークの近代美術館は、開館75年目の節目に大幅改修し、11月にオープン。谷口吉生氏の設計による。／11月

・ヨーロッパでは、一時廃れた路面電車が最新式の「LRT(ライトレールトランジット)」として復活している。フランスで先駆けとなったのは、交通渋滞による公害が深刻だったナント市で、その解消に向けて復活させたこと。／12月

・韓国、ソウル市都心部の清溪川再生工事が進む。2005年9月の完成を目指す。清溪川は、ソウルが朝鮮王朝の首都になって以来、地理、政治、文化的に街を区分する境界になってきた。生活排水が流れこむなどして汚染が深刻化。1958年から20年にわたって上流部6kmがコンクリートのふたで覆われた。その上は巨大幹線道路、さらに4車線の高架道路が走っていた。この道路の廃止、川の復元を決定したのは、李明博市長。朝鮮戦争で荒れた国を立て直し、急速な発展を遂げた国の中で、新しい都市の方向を目指す象徴的な存在に。／12月

〈2005年〉

・中国の文字改革。1949年の解放当時、20%という識字率の低さを解消するため、漢字簡略化(簡体字)が進められた。その結果、2004年には識字率は95%まで上昇。一方、古典研究や整理のために繁体字の整備も進められている。／1月

国内／2001年

全般(全国および東海・愛知県・名古屋市)

・家電リサイクル法施行。不法投棄が前年比2割増。／10月  
・東京都杉並区、「レジ袋税(買い物時に5円)」の課税条例を区議会に提案することを決定。／10月

・8月、大手百貨店は業績回復。デフレの逆風だが、海外ブランドなど好調。／10月

・年末は、同時テロ、株安などで消費低迷の危機感から、歳暮商戦を前倒し。／10月

・競馬、競輪などの地方公営ギャンブルから撤退する自治体が相次ぐ(興行面の魅力不足と景気低迷)。／11月

・国内企業ではじめてソニーが中国でのパソコン製造・販売を開始。／11月

・名古屋の「がんこ炎」と大阪の「がんこフードサービス」が「がんこ」の文字と鉢巻き姿の男性の顔のイラストの商標権をめぐり、大阪地裁で争う。／11月

・国内の上場69社が需要減退に伴う設備過剰解消のため、国内120工場を閉鎖。また、アジアなどへの海外生産移転も。／11月

・国土交通省、首都圏と近畿圏の中心部で一定の大きさ以上の工場や大学の新増設を規制している「工業等制限法」「工場等制限法」を廃止する方針を公表。大学の都心回帰、工場の新増設を促し、都市再生や雇用創出へ。／11月

・米国テロの影響で、新婚旅行先の国内派が増加。／11月

・愛知県、2005年日本国際博覧会(愛知万博)の骨子発表。「自然の叡智」をテーマに環境問題を取り上げる。／11月

・11月、名古屋港水族館新館開館。世界最大級の水槽、イルカのパフォーマンスなど。／11月

・名古屋駅での大規模ビル建設計画が目白押し(JRセントラルタワーは1999年誕生)。／11月

・東海3県の大規模小売店舗(売り場面積3000平方メートル以上)数は85年から2000年の間で1.6倍に増加。百貨店やスーパーの競争激化で苦しい経営が続いている。大規模小売店舗法の廃止で大型店の出店は原則自由化されたが、新しくスタートした大規模小売店舗立地法により自治体が環境面の規制をすることを認められており、出店コストが高くなる恐れがある。／11月

・政府の地震調査委員会、「東南海地震」「南海地震」の震度を6弱と試算。／12月

・11月の失業率、5.5%。／12月

- ・老朽化マンション、10年後には93万戸に。現在は全国の特許マンション385万戸のうち築30年以上が12万戸。／12月
- ・愛知万博、来場者の15%をリニア・モーターカー東部丘陵線でまかなう輸送計画を発表。／12月
- ・名古屋市、2010年度までに資源を除くごみの量を79万トンから62万トンに減らす計画を発表。／12月
- ・三重県伊勢市のおかげ横丁のこの年の入場者280万人(前年より20万人増)に。／12月

#### 屋外環境、景観関連(全国および東海・愛知県・名古屋市)

- ・名古屋市、1999年に藤前干潟の最終処分場建設のための埋め立て断念。2001年多治見市の愛岐処分場の容量かさ上げを岐阜県へ届け出。／8月
- ・ヒートアイランド現象。名古屋市も真夏は郊外より都心部が5度高い。対策例として屋上ビオトープ、道路舗装に保水材など。／8月
- ・愛知県、警察により2月名古屋市内で横断歩道面に点字ブロック設置、好評。／9月
- ・屋外広告不況。幹線道路沿いの空洞化が目立つ。屋外広告物は、自家用を除き知事や政令指定都市の市長の許可が必要。破損、倒壊、落下の危険のあるもの、道路の安全を妨げるものなどは条例で禁止されている。地域の性格に応じて規制しているところも。／9月
- ・愛知県豊田市、豊田大橋のデザインを酷評した文芸春秋の記事に対して、賠償命令。／10月
- ・京都市中心部でマンション建設ラッシュ、市民の反対運動が起きる。東山区や本願寺周辺は全国的にも最も規制の厳しい地区、高度計画や市街地景観条例で高さを制限。中京区、下京区の中心地は高さ31m、容積率400%が上限。大通り沿いは高さ45m、容積率700%。両区は都市計画の見直しを検討。／11月
- ・北九州市と下関市が共同で「関門景観条例」(関門景観協議会、関門景観審議会が運用を担う)を施行。対岸からの視点に基づく景観を考える試み。門司港レトロ事業、下関市内の古い建物の撤去見直しなど。／11月
- ・愛知県警、住宅街の生活道路の事故減少を目指し、車道部を狭め、中央線を消す試験を実施。事故が半減した結果を受け、全県へ拡大へ。／11月
- ・名古屋市、白川公園での緊急一時宿泊施設(シェルター)の建設見送り。白川公園内で小屋やテントに住んでいる人に限定しようとして、反発を受ける。／11月

- ・名古屋市、日本ガイシがセラミック技術による大型ディスプレイを地下鉄桜通線に設置。／11月
- ・名古屋市、歩道上でオープンカフェを実施。愛知県警の許可は出ないまま。／11月
- ・名古屋市、鍋田ふ頭沖の埋め立て計画を白紙撤回、愛岐処分場の延命策で対応することに。／11月
- ・愛知県警中署、名古屋市中区錦三丁目の違法駐車一掃作戦として、「止めさせん棒による交差点狭小化」「道端へのカラーコーン設置」などを実施。／11月
- ・名古屋市、堀川浄化に向け、中部電力が火力発電所から出る廃棄物(クリンカアッシュ)を利用した浄化実験を実施。／12月
- ・名古屋市交通局、7月から市バスのラッピング車両運行開始。12月から地下鉄でも開始。／12月

## 2002年

#### 全般(全国および東海・愛知県・名古屋市)

- ・基金の運用難から資金不足に陥っている名古屋ボストン美術館を経済界が支援すべきと、名古屋商工会議所会頭が姿勢を表明。／1月
- ・出生最低117.5万人、出生率1.39。／1月
- ・2001年3月オープンの大阪市・ユニバーサルスタジオジャパンが1年で1000万人を突破。ディズニーランドの開業年の入場者数を上回った。／2月
- ・高卒内定率最悪63.4%。／2月
- ・横浜市中区伊勢佐木町、2000年以来有力商業施設などを相次いで開業し、活性化を図る。／3月
- ・日本への外国観光客500万人相当。うち6割超がアジアから。韓国、台湾が4割超。台湾は景気後退で減少しているが、中国大陸からの増加に期待。／3月
- ・名古屋港管理組合、名古屋港水族館北館オープンまでに確保できなかったシャチの入手のために3億5000万円を計上。／3月
- ・建設中の中部国際空港の地元にカジノ構想が浮上。日本では合法化されていない。／3月
- ・名古屋市中区・旅館さくらやがショッピングモール「さくらアパートメント」に転業、2001年の開業以来注目スポットに。／3月
- ・ラゲーナ蒲郡、2003年の開業に向け建設中。バブル期に策定した計画は大幅に縮小。／4月

・宮崎県都城市・宮崎産業経営大学都城キャンパス、1991年に「公私協力方式」で誘致したが、学生数の減少により、設立10年目で宮崎キャンパスと統合へ。／5月

・トヨタのハイブリットカー、発売から4年で国内の伸びは鈍化傾向、北米などの海外で伸びる。／5月

・名古屋市千種区のサッポロビール工場跡地の再開発計画で、森ビル、トヨタが撤退を決める。／5月

・街おこしとしてフィルムコミッションを進めることを提言する記事。／7月

・神戸市中央区、灘区に神戸東部新都心(HAT神戸)。兵庫県立美術館、人と防災未来センターが開館。／7月

・日本道路公団、高速道路と一般有料道路の収支などを初めて公表、6割が赤字。／7月

・大阪市がオリンピック誘致に失敗。／8月

・物価が継続的に下落するデフレ現象が3年続いている。商品は安く手に入るが、収入も減少するので、経済規模が縮小。／8月

・2001年度、愛知環状鉄道が88年の開業後初の赤字に。愛知万博に向けての駅や線路の改修工事への投資による。／8月

・名古屋市、容器リサイクル法に沿った分別収集スタートから2年目、ゴミの量が初年度より1.6%増加した。／9月

・名古屋ガイドウェイバス、高架の専用道をバスが走る。2001年にスタート、利用は当初の需要予測を3割下回る。／9月

・名古屋市中区、大津通沿いに有名ブランドの outlet ラッシュ。1996年にナディアパークがオープンして、地下街から出て地上を歩く流れができたことによる。／9月

・東京都大田区、1930年代に畑地へ工場誘致を進め工場街に。近年は社会経済の変化でマンション建築が相次ぐ。／10月

・大阪市・船場は江戸時代から流通の要だったが、現在は繊維問屋を中心にした卸売業の街に。近年では「安売店」が増えて「卸値」の存在感がかすんできた。／10月

・ダイエー、直営家電販売事業から撤退。部門を絞り全体の利益を上げて、生き残りを図る。／10月

・環境省、2003年度からオフィスや商店のCO<sub>2</sub>削減に対して助成する方針。環境税収入をどのような温暖化対策にあてるかを見極めるモデル事業に。／10月

・トヨタ自動車を筆頭とする中部地域の各種メーカーは世界戦略を加速させるなど健闘を続けている。中部国際空港の開港、愛知万博の開催などビッグプロジェクトがひかえている。／10月

・名古屋駅前の開発計画続々。2000年に開業したJRセントラルタワーズ以降、駅北側に「牛島再開発ビル」、駅東側に豊田ビル・毎日ビルの建て替え、駅南側に「笹島再開発地区」など。栄地区では、松坂屋名古屋店南館が2003年、三越栄本店新館が2005年オープンを目指している。／10月

・JR高島屋、8月中間決算で前年同期比33%の営業利益増加。他の4デパートは減収。／10月

・愛知県蒲郡市「ラグーナ蒲郡」、第三セクターによる運営が懸念されたが、オープン半年は予想を上回る好調。／10月

・「電子芸術国際会議・ISEA 2002名古屋」、10月に開催。／10月

・名古屋市バス、159系統中、黒字は9系統のみ、残り152系統赤字。100円稼ぐのに150円かかる。累積赤字5572億円。／10月

・東京都、汐留貨物駅跡地の再開発地区「汐留シオサイト」、地下鉄大江戸線・新交通システムゆりかもめの汐留駅が開業。周辺には大企業の本誌やビル、高級マンションなど超高層ビル群が林立。／11月

・コシヒカリ、ゴーヤー、マンゴー、しいたけなど、温暖化の影響のせいか、産地が北上。／11月

・2009年の大学全入時代を前に、いまだに全国の自治体で大学誘致がさかん。全国学長の8割が供給過剰を危惧。／11月

・国内自動車メーカー各社、コンパクトカーを投入。購入者の6割を女性が占める。トヨタ・ヴィッツ、ホンダ・フィット、日産・マーチなど。／11月

・企業と産業技術総合研究所などによるロボット技術開発、二足歩行、荷物運搬、重機操作などの技術が向上。／11月

・10月の完全失業率は5.5%、男性は5.9%。／11月

・2001年度の広告費、前年比2%減少で、2年ぶりに減少へ。／11月

・神戸市・マクドナルド三宮センター街店で「女性専用フロア」が8月に登場。／11月

・愛知県蒲郡市、「ラグーナ蒲郡」逆風下での船出。／11月

・名鉄小牧線と名古屋市地下鉄名城線をつなぐ「上飯田連絡線」が翌年3月開業予定。名古屋市と小牧市などとの連絡はよくなるが、大赤字を抱える新交通システム「ピーチライナー」利用客増加の効果は限られそう。／11月

・名古屋商工会議所、愛知県、観光業界は、愛知万博と連携して産業観光を推進する計画。(トヨタ博物館、産業技術記念館、刈谷の森など)／11月

・東海地域で、車両に店舗機能を備えた移動店舗多彩。

パン屋、カレー屋、美容院、ベットの床屋、花屋など。／11月

- ・東京都、都心の再開発ラッシュ。**六本木ヒルズ**(2003年完成)、**カレッタ汐留**(2006年完成)、**丸ビル**(2007年完成)。／12月
- ・気象庁、2002年の世界と日本の平均気温が、その以前の30年の平均(平年)より0.6%程度高かったと発表。／12月
- ・2002年5月、**成人男性の喫煙率が49.1%**に。女性とあわせて全体でも30.1%に(男性の過去最高は1966年の83.7%)。／12月
- ・高卒就職内定率、9月末で33.4%、10月末でも47.1%、愛知県では10月末で70%。／12月
- ・**PDA(携帯情報端末)**、「ケータイでは機能不足、パソコンでは持ち運びに大変」という不満解消へ。／12月
- ・今年は「**オフバランス消費**」(日常の家計用とは別に蓄えているお金を思い切って使う)、「**プチぜいたく忘年会**」(景気低迷、せめて楽しく過ごしたい)など。／12月
- ・**外食産業5年不況**。日本マクドナルド、59円バーガーを投入、客数減の歯止めをかけたが、前年比84%もの減益に。対照的に高級感を打ち出した個性派外食店舗が健闘。／12月
- ・**パート社員、派遣社員、アルバイトなど、非正社員**が近く1500万人を突破する見通し。雇用労働者全体の3割に相当。／12月
- ・東京都・丸の内「セブンイレブン」、客の増減にあわせ、レジ台の構成を昼夜で変更している。江戸川区の美容院、客の集中する夜の時間にあわせ、営業時間を午後3時～午前0時に。
- ・三重県桑名郡多度町、**RDF(ごみ固形燃料)化処理場および発電所**が運転開始。／12月
- ・愛知県豊橋市資源化センターのガス化溶融炉では、**プラスチックごみのリサイクル**が進み(1999年導入の容器包装リサイクル法に基づく)、その量が減少した関係で、ごみ焼却の際に灯油を投入。／12月
- ・名古屋を地盤とする**新興外食産業が、学生やフリーターなど非正規社員の戦力化を加速**。／12月
- ・岐阜県大垣市で、IT育成拠点として1996年にスタートした**ソフトピアジャパン**。その中で、映画などのCG画像制作を手がける**デジタルウィザード**。3人の社員ですでに9本の映画用の画像を制作。／12月

#### 屋外環境、景観関連(全国および東海・愛知県・名古屋市)

- ・東京・JR山手線、ゆりかもめで2001年終盤から**車体広告車**

- 両が登場。ゆりかもめは屋根部分にも掲出し、周辺のビルから見える広告も展開。／1月
- ・名古屋市、**堀川での屋形船の運航開始**(東山ガーデン)。当面は不定期の貸し切り運航のみ。／1月
- ・国土交通省の「手づくり郷土賞」に**愛知県犬山市の中本町まちづくり拠点施設「どんでん館」と大本町「犬山城下町地区」**が選ばれた。／1月
- ・名古屋市、中区錦2丁目広小路沿いの金融街の活性化策。名古屋市は2001年春の「**中心市街地活性化基本計画**」で**名古屋駅～栄の2キロ区間を「ロマンチック回廊」と命名**。建物1階にカフェやブティックを誘致。TMO(タウンマネジメント・オーガニゼーション=中心市街地活性化法に基づく組織)もまだ発足していない。／1月
- ・東京都港区元麻布に建設中の環境配慮型マンション(上部が大きく、下部がスリム)、「**景観破壊**」と批判の声。／2月
- ・東京都渋谷区、表参道の**同潤会青山アパート再開発計画**がまとまる。／2月
- ・家電リサイクル法施行1年経過、回収台数は予測を4割程度上回る。不法投棄は18%増えたが、廃家電全体の中では1.4%。／3月
- ・東京都港区南青山に2001年に登場した**クリスチャン・ディオール**の**工事現場仮囲いへの広告**。夜間はライトアップも。／4月
- ・**京都市、路線バスの車体全面広告に市民から苦情**が相次ぎ、規制する方針。2月の道路運送法の改正でバス事業への参入が容易になることもあり、対応措置を講じることに。2002年度中に市の屋外広告物条例を改正し、規制対象に。／4月
- ・名古屋市、6月に施行された**都市再生特別措置法**でJR名古屋駅前が「**緊急整備地域**」に指定された。容積率などの規制を白紙にして、都市計画を立てられることに。民間主導の大型開発に期待。／6月
- ・横浜市、**横浜港大棧橋客船ターミナル**が完成。船の甲板のような木製の屋根が特徴。／9月
- ・東京都渋谷区、表参道の同潤会青山アパート再開発計画、設計者安藤忠雄氏が周辺環境との調和を考えた再構築案を示した。／9月
- ・滋賀県、**琵琶湖の水辺のレジャーを規制する条例案**。「従来型水上バイクの蛇行禁止」、「釣った外来魚の再放流禁止」。／9月
- ・伊勢市河崎地区の**景観形成**。昭和初期まで水運で栄えたが、その衰退とともに活気がなくなった。16年前に蔵を利用し

た喫茶店が開業したのをきっかけに、再生に向かった。／9月  
 ・**名古屋市広告・景観審議会**、愛知万博や中部国際空港開港を控え、**歩行者用案内図の国際化**を検討。文字を日本語、英語、ハンゲル、中国語、ポルトガル語の並記とすること、絵文字を国際的に通じるものに変えるなど。表記内容が増え、デザインが煩雑に。／9月

・**名古屋市**、都心・栄の中心部に**半地下式公園「オアシス21」**オープン。「水の宇宙船」(水をはったガラスの大屋根)が特徴。／10月

・**東京都千代田区**、**路上喫煙禁止条例**施行。吸い殻激減。／11月

・東京都は前年の春から**新改築のビルに屋上緑化を義務づけ**。全国の自治体でもその施工費助成を始める。ビルの都心回帰で注目されているが、技術的には課題も多い。／9月

・警察庁、国交省・愛知県が実施して成果を上げている「**車道を狭め、中央線を消す**」**交通事故防止策**が全国拡大へ。／11月

・東京都、大手町のオフィスビルで社員食堂を持つ企業が少なく、5年前に造った公開緑地の植え込みの間で食事する人が多い。／11月

・東京都国立市、**大学通り沿いに新設された高層マンション**が建築基準法に違反する建物で景観権を侵害しているとする周辺住民の訴えが東京地裁で認められ、**7階以上(高さ20メートル以上)の部分の撤去**を命じた判決が出た。／12月

・**レトロな洋風建築**に人が押し寄せる現象が起きている。東京都・解体予定の江東区の食糧ビルディング、品川区の正田邸。滋賀県豊郷町のヴォーリス建築の取り壊し反対運動。／12月

## 2003年

全般(全国および東海・愛知県・名古屋市)

・ファッションデザイナー**三宅一生氏**、国際的に通用する「デザイン立国」日本、**デザインミュージアム**構想。／1月

・**「食」のテーマパーク**が全国で話題に。2002年7月にオープンした「池袋餃子スタジアム」「なにわ食いしんぼ横町」が人気トップ。／1月

・2002年の平均完全失業率は5.4%で過去最悪。雇用悪化で個人消費は萎縮、デフレに歯止めかからず。／1月

・2002年の交通事故死亡者8,326人、最悪だった1970年の半分に減少。2002年6月に悪質な違反に対する罰則を引き上げ

た**改正道路交通法**が施行された効果。／1月

・2000年、一般廃棄物の全国排出量が5200万トンで過去最高に。2001年度の家電リサイクル法施行の前に駆け込で粗大ごみを捨てるケースが多かったため。**ゴミのリサイクル率は14.3%に上昇**。／1月

・京都府・関西文化学術研究都市の中に、国が若者向けにつくった「**しごと館**」が3月にオープン。「日本初の職業の総合情報拠点」として、バブル経済の余韻があった1992年から検討され、当時志向が強かった箱モノとして完成。／1月

・この春卒業予定の高校生の就職内定率が2002年11月時点で60.3%で過去最低に。／1月

・邦画界の再活性化を目指した動き。東宝が砧の撮影所内に国内最大の容積のスタジオが2月に完成。また、東京湾岸の晴海地区に「**東京国際映像センター**」をつくる構想が動き出す。アメリカの映画協会や映画監督と協力し、2008年をメドに最新技術を備えたスタジオや教育機関を開設する。／1月

・兵庫県神戸市・**御影駅の半径1km内は日本一のケーキ激戦区**。洋菓子店が15軒前後ひしめいている。／1月

・名古屋鉄道、野外民族博物館「**リトルワールド**」を愛知万博が閉幕する2005年9月で閉鎖する方針を発表。／1月

・**名古屋鉄道、合理化に向けての3つの課題**。レジャー=近年の集客がピーク時の4分の1の明治村だが、多くの文化財を含んでいるために、継続せざるを得ない。流通=名鉄百貨店、ジェイアール名古屋高島屋との競合で売り上げでダウン、「メルサ」「セブン」のコンセプトを統一化し、集客増を図る。鉄道=コスト削減が奏功して営業利益は上がったが、輸送量減の傾向は止まらなかった。／1月

・愛知県蒲郡市の「**ラゲーナ蒲郡**」、2002年4月オープンした「**ラグナシア**」、1年で入場者100万人を目標としていたが、3ヶ月早く達成。／1月

・愛知県、名古屋造形芸術短大学生が足助病院(足助町)で患者への思いやりを込めた「**やさしい美術**」を展開。大阪市・市立大学医学部付属病院で作曲家が小児科の子どもたちと即興演奏しながら曲づくり。／1月

・三重県松阪市に「**小津安二郎青春館**」が2002年12月にオープン。小津安二郎は少年期を松阪市で過ごした。／1月

・トヨタ自動車、**高級車ブランド「レクサス」**を日本にも導入する方針を明らかに。／2月

・トヨタ自動車は小型ミニバン「**ウィッシュ**」を発表。本田の同クラスのミニバン「**ストリーム**」への対抗車種。／2月

・長崎県佐世保市、**ハウステンボス倒産**。会社更生法適用を申請。1992年開園、バブル崩壊の影響で高級別荘の販売

が難航。テーマパークの入場者も4年目の1996年をピークに減少。／2月

・「名古屋港水族館」「沖繩美ら海水族館」「海遊館」など、**大型プールでの動物ショー、大規模水槽の展示設備**が人気。／2月

・**ロボット開発さかん**。介護用パワースーツ、階段昇降が可能な遠隔操作ロボット、お掃除ロボット、来客者出迎えロボットなど。人間型ロボットがアスリートのように動いたり、壊れないような転び方をする。二足歩行の**人間型ロボット「アシモ」のレンタルビジネス**がフル回転。／2月

・2月期の単独売り上げ高で、**拡大路線を進めるスーパー大手のイオン**が、リストラに専念するダイエーを抜き去り、スーパーで初の首位に立った。ダイエーは1995年2月をピークに売り上げは減少傾向。／2月

・大相撲、現役引退した貴乃花が親方として再スタート。1991～92年の貴乃花、若乃花の初優勝時をピークに人気は低落。／2月

・コンビニエンスストア最大手の**セブンイレブン**は設立**30周年**になるが、業界で初めて1万店を突破。「消費者ニーズに対応していけば、出店の余地はまだある」と社長の見解。／2月

・**タクシーの新規参入や値下げなどを促す規制緩和**から1年、新規の需要を掘り起こすため、新サービスを展開。高齢者の介助や送迎、空港到着客を相乗りで自宅へ運んだり、車内での通信販売、迎車料金の廃止、遠距離割引など。／2月

・長野県・田中康夫知事、2006年度までの4年間で公共事業の国庫補助分を段階的に4割削減する財政再建策を示した。／2月

・真偽不詳だったゴッホの**「農婦」が真作とわかり、広島県のウッドワン美術館が6600万円で落札**。／2月

・**携帯電話向けの広告**、2002年市場規模は50億円で前年比の2倍に。／2月

・著作物の自由コピーを認めるマークの普及に文化庁が乗り出す。ホームページ上でマークの配布を始め利用を働きかける。「コピーOK」「障害者の使用OK」「学校教育での使用OK」の3種。／2月

・都市基盤整備公団、名古屋市千種区の**サッポロビール名古屋工場跡地に、スーパーのイオンとスポーツクラブのメガロス**が進出することが決まったことを発表。残りの跡地も分譲や賃貸のマンションとして再開発する計画。／2月

・2002年度の名古屋市内の主要百貨店売り上げで、**ジェイアール名古屋高島屋**が3年目にして名鉄百貨店を抜き3位に。／2月

・名古屋市昭和区の八事商店街、中京大学と組んで、空き店舗で実際に店を運営する。**学生が社会に出て学ぶインターンシップの一環**。瀬戸市では、瀬戸銀座商店街が名古屋学院大学がカフェレストランやFM局を運営。／2月

・**名古屋の副都心・金山の再開発**が進む。1999年に金山南ビル(名古屋ボストン美術館、ホテルグランコート名古屋他)が完成、歩道が整備された。三十代以上がくつろげる飲食店が多数開店。／2月

・全国各地で**大型温泉施設の開業**が続く。景気低迷でレジャー支出が落ち込む中、遊園地やテーマパークがテコ入れ策として導入する例が多い。東京都・臨海副都心「大江戸温泉物語」、三重県・長島リゾート「湯あみの島」、愛知県・ラグーナ蒲郡「ラグーナの湯」など。／3月

・サントリーが自社製品に「スーパー××ドライ」という名をつけたことに対し、アサヒビールが「スーパードライ」の不当利用だと訴えた。サントリーはこの訴え自体が営業妨害の「流布行為」と主張し、泥沼化。両社は東京地裁の勧告に従って和解することに。／3月

・TOTOがタンクのない便器の洗浄・給水技術の特許権を侵害されたとして、INAXを相手どり、製品の販売中止などを求めた。両社は東京地裁の勧告に従って和解することに。／3月

・日本マクドナルド、藤田田会長退任。すかいらーく、ロイヤルホストでも創業者が引退。1997年をピークに縮小傾向にある**外食産業は次の世代の力が求められている**。／3月

・**日本マクドナルド、同社最高値(270円)の「プレミアムマック」**を発売。2002年末には、それまで繰り返した値下げ、値上げの価格戦略が失敗に終わり、12月決算で赤字に転落していた。／3月

・新店舗を次々とオープンし、不況知らずと思われた**高級輸入ブランド**が、2001年の米国テロ以降の消費手控えに押され、明暗が分かれてきた。**勝ち組はテロ以前に日本国内に確固たる地位を築いた企業**。／3月

・郵政事業庁、4月の**日本郵政公社への移行**を機に、不採算や時代遅れのサービスを廃止。変わって、郵便局での封筒販売、プリクラ切手サービス、全500円の新小包をスタートさせる。／3月

・**コンビニエンスストアがセルフ方式のガソリンスタンドと共同出店**に乗り出す。「ついで買い」を誘う。／3月

・名古屋の女性向けタウン誌「KeLLY」、全国でも例を見ない好調、公称12万部。バブル期の好調時からスタート、週休2日制の浸透や男女雇用機会均等法が追い風に。／3月



・**学校週5日制が実施されて4月で丸1年**。文部科学省の小中高生への調査では、実施に対して好意的な評価が7割を超えたが、休日に「することがない」との回答が3割あった。／4月

・**デザインの洗練度を重視した家電**が注目を集めている。空前のインテリアブームに通じる動き。豊かさを知った後の不況期には、「ブランド」の確立が必要。見てわかるデザインの役割が大きい。／4月

・映画料金、1990年代前半まではほぼ全国一律で値上がりして1,800円が続いている。1993年にワーナー・マイカルが**シネマコンプレックス**を開業以降、様々な割引を導入。2002年末でシネコンのスクリーンシェア率が53%に及び、それ以外の映画館も多様な料金設定に取り組むようになった。／4月

・**ロボット開発の最新状況を紹介する「ROBODEX 2003」**開催。ヒューマノイド(人型)ロボットの進化が著しい。産業用、介護用、医療用、接客対応用など、様々な用途に向け、開発が進む。／4月

・制汗剤、生理用品、消臭剤などの家庭用品で、パッケージデザインを大幅に変更。おしゃれさを強調することでシェアを伸ばしている。デフレ下で崩れがちな店頭価格を立て直す効果を生んでいる。／4月

・**大手コンビニエンスストアの間で、「こだわりのおにぎり」**など質や価値の高い商品展開が成功につながっている。消費者のニーズが安さだけに向かっていないことを示した。／4月

・東京都千代田区、中央区、港区の都心3区で今後5年間で**高層マンションによる85,000戸の住宅供給**が予測される。4月に完成の六本木ヒルズは、商業施設の他、大型賃貸住宅開発でもある。品川東口地区、汐留地区、銀座1丁目でも計画が進む。／4月

・**東京都中央区八丁堀**、大規模開発で大手企業が新しいビルに移り、抜け跡になった老朽化ビルを再生、住居に転用して新しいつまちづくりをする動き。2010年までに団塊世代の定年退職が進み、オフィス需要が減少する一方、**住居の都心回帰**は確実に増えると予想される。／4月

・東京都、4月にオープンした「**六本木ヒルズ**」、開業4日目で来場者100万人突破。物販、飲食店、ホテル、シネマコンプレックス、住宅などからなる複合施設。／4月

・カジュアル衣料「**ユニクロ**」、既存店の売り上げ高で苦戦が続く。国内外の店舗の閉鎖、縮小の他、女性、子供、赤ちゃん向けの商品開発に活路を求める。「ユニクロTプロジェクト」で2,500種のTシャツの発売も。／4月

・90年代以降、**消費を自己実現と考える女性**が増えてきた。自分を取り巻く世界を充実させるための投資のような消費。

インテリア、家具、身の回り品に資金を投じている。／4月

・**日産(カルロス・ゴーン社長)**、3月の連結経常利益が過去最高に。高級車「ティアナ」は、内装全体にモダンリビングの考え方を取り込んだことが成功に。／4月

・**東京ディズニーランド、開業20年**。多くのテーマパークが苦戦する中、2002年度にはディズニーシーも含め前年度比12%増の2,480万人が来場。一方、広大な埋め立て地に次々と施設を建て拡大してきたが、その土地も残りわずかになってきた。テーマパークの他に、ホテル業や小売り店、飲食店の展開なども行なっていく計画。／4月

・**大分県豊後高田市**、昭和30年代のイメージでとまっていたようなひん死の商店街。この古めかしさを武器に「**昭和の街**」をアピール。ここに福岡県の駄菓子店経営者が「駄菓子屋の夢博物館」をオープン。これを機に観光客が月10,000人以上訪れた。団塊世代が注目。／4月

・名古屋市、洋食器メーカーの**ノリタケ**が、創業100周年記念事業として2001年10月に工場跡地に「**ノリタケの森**」をオープン。以前からあったクラフトセンターに商業施設などを併設。／4月

・消費不況の中、「**ルイ・ヴィトン**」(フランス)が全国的に好調。名古屋市では、名古屋駅から栄駅までの間に4店舗が集中。景気低迷の影響を受けにくいこの地域の家計構造が個人消費を下支えしている。／4月

・**名古屋市西区新道町の駄菓子問屋街**。不況で企業が販促費を増やせないことから、その材料として駄菓子に注目。この業界はむしろ売り上げを伸ばしている。また、90年代の終盤に販売サイトを立ち上げた会社は毎年3割ペースで売り上げ増。現在年商1億円、うち3割がネット販売。／4月

・**オリエンタルランド**、経営破綻したハウステンボスの支援を見送る方針を固めた。「動きのあるアトラクションなどを展開するオリエンタルランドの考え方はなじまない。採算的にも難しい。」という判断。／5月

・2003年春卒業の高校生、就職内定率は前年よりやや持ち直して90%台に。しかし、求人数は年々減り、仕事選択の幅は狭くなるばかり。やむをえずアルバイトや進学を選ぶ傾向も見える。／5月

・2003年4月の15歳未満の子供の推計人口は1801万人で過去最低。前年より17万人減少。／5月

・コンビニエンスストア、高級スポーツカー、年代層を超えて受け入れられるミュージシャンのCDなど、少子高齢化時代にあつて**財力のある中高年層への対応が課題**に。一方、2000年代後半には**全入時代を迎える大学**は、その経営方針が問われ

ている。／5月

・**そごうと西武百貨店が6月1日に経営統合**。売上高1兆円規模の「ミレニアムリテイリンググループ」を発足する。／5月

・名古屋市では2002年度のゴミの量が前年度比で0.8%減少。ゴミと資源に回されるものの総排出量は2000年から横ばい。／5月

・**AVソフトのレンタル・販売のゲオ**（愛知県春日井市本社）、新品・中古・レンタルの3形態で店舗数1位のカルチュア・コンビニエンス・クラブを急追。地域に根ざしながら、1999年から全国拡大を始めた。／5月

・**分譲マンションの住民の意識変化。「管理費」に対する関心**が高まり、管理会社を乗り換えも増えてきた。他社との比較によって2～3割減額できるケースもあった。素人にはわかりにくい費目も多いので、わかりやすく提示するよう要求することも必要。／6月

・欧米の名作が**日本の美術館を素通りする「日本パッシング」**が続く。バブル崩壊後の資金不足、作品提供の見返りとなる研究者人材や作品の不足が原因。これに対して、作品誘致に力を発揮できる人材の確保に動く他、国内美術館とおしの交換展示、アジア作品への注目など新たな動きも。／6月

・**東京国立博物館、独立行政法人化に伴い、常設展示の大改革**に。学芸部を廃止して、各ジャンルごとの専門家集団を解体。横断的な企画をしやすくした。名古屋市美術館、福岡アジア美術館、埼玉県立近代美術館なども常設展示を見直す動きに。／6月

・**国立の美術館・博物館**は2001年の独立行政法人化以降、**入場料収入のアップ**を求められるようになった。京都国立博物館「アートオブスター・ウォーズ展」、東京都現代美術館「ジブリがいっぱい展」、東京国立博物館「大日蓮展」「西本願寺展」など、入場者が見込める企画が続く。これらの動きに対し、学芸員は人員が削減されたり、展覧会企画に関わりにくい状況になるなど、その地位が揺らぎはじめている。／6月

・政府の知的財産戦略本部は、知的財産立国構想の推進計画を7月にまとめる。「**コンテンツビジネス振興法**」を制定し、映画プロデューサーを養成する専門職大学院の設置、映画投資に対する優遇税制の措置などを行なう。アジア地域の追い上げを受ける中、競争力のある知的財産を創造していくための支援策である。／6月

・ビールの売り上げ減少が続く中、発泡酒も落ち込みを続けていたが、5月からの増税を前の駆け込み需要で、一時全体の中の割合で50%近くに伸びた。しかし、その後はその反動もありまた低迷。各社はチューハイなどの低アルコール飲料を相

次いで投入。／6月

・**団塊世代、子供が結婚して孫が生まれる年頃**。「経済的に余裕のない子供に変わって自分たちがする」という考えのもと、孫に投資する姿が目立つ。／6月

・友人を自宅に招く感覚の「**ハウスウエディング**」が流行。名古屋港近くに「アルカンシェル名古屋ウエディングビレッジ」がオープン。結婚式を楽しく気軽なパーティーにする傾向だが、結婚の総費用は全国トップ。地元の互助会系結婚式場やホテルも、チャペルをつくったり改装することで顧客つなぎとめ策を打っている。／6月

・**オリエンタルランド、東京ディズニーシー開業から2年**がたち、利益成長の踊り場に。拡張が期待できなくなった舞浜以外の場所での展開、キャラクターを活用した事業の本格化などを模索。／7月

・**JTがたばこ工場を2005年末までに半減**する計画。喫煙規制の強化や増税で需要減少に対応。

・**たばこ広告、規制を強化**する方向へ。社内広告、TV・ラジオなどの広告の禁止、街頭看板の禁止区域の拡大。／7月

・**名古屋ボストン美術館**、米ボストン美術館に20年間で5,000万ドルの寄付をする見返りに所蔵作品を借りて展示するシステムだが、独自に作品選考を行なえない不平等な契約。運営費膨張、来場者低迷で後半10年の契約を破棄し、**2009年春には閉鎖の方針**。別形態の美術館として存続させる考え。／7月

・**中部国際空港、建設中**。7,680億円かかるといわれた海上空港を、15%安い6,500億円で仕上げるといふ事業費圧縮は公共事業のあり方に一石を投じる。空港内には、有名飲食店などが入るレストラン街ができる予定。陶磁器産業の低迷、県内で最も速く高齢化が進む常滑市だが、空港内の施設が充実するほど、地域が受けられる恩恵も少ないと予想される。／7月

・中部国際空港は、PRキャラクターとして「**謎の旅人**」を発表。制作したのはアレンジ・アロンゾ。／7月

・愛知県春日井市の鶴飼一郎市長、「**名古屋空港は中部国際空港開港後は小型機中心の県営空港**になるため、国土交通省から周辺環境対策を打ち切る意向が示された。しかし、その後に防衛庁が航空自衛隊小牧基地を空中給油、輸送機配備の候補地として有力視している。」ことに対して、「感情を逆なでしている。許せない。」と反発。／7月

・**屋外広告の賃料の下落**が続く。企業の広告節減傾向、たばこ広告の自主規制などが影響。／8月

・**東京都心、ヒートアイランド現象が深刻**。100年で同地域

で4℃上昇。／8月

・松坂屋、大阪店とくずは店を閉鎖。全国の店舗について「選択と集中」路線へ。／8月

・愛知県蒲郡市の複合海洋リゾート「ラグーナ蒲郡」では、2002年4月にオープンしたテーマパーク「ラグナシア」の来場者が前年同月比で半数に減少。巻き返し策として来年のゴールデンウィークまでに新アトラクション、ステージ、レストランを導入する方針。／8月

・総務省の人口調査では、東京都への人口集中傾向が鮮明になっている。中高年者に都心部への定着の動きあり。／8月

・ハウステンボスの債券支援企業として、野村プリシパル・ファイナンスが決まった。／9月

・大阪市福島区・福島聖天通商店街。毎月第四金曜に20～30人の占い師が路上に机を並べ、「占いデー」に。寂れた街が1年で人気スポットに。／9月

・東京都港区神宮前、原宿の裏路地「裏原」。大手ブランド隆盛の裏で、この場所だけの限定ブランドに長蛇の列。常連客が店員と親しくなり、情報が口コミやネットで広がる。デフレ不況下のあり方の一つ。／9月

・100円ショップ各社、既存店苦戦で新規客開拓のため、ディスカウントストア、酒販店、ビデオレンタル店との複合化を進める。／10月

・東京都・六本木ヒルズ、開業半年で入場2,500万人。4割がリピーター。／10月

・アメリカのジョン・シャーディ設計の商業施設が相次いでオープン。東京「カレッタ汐留」、「六本木ヒルズ低層部商業施設」、北九州市「リバーウォーク北九州」、川崎市「ラチッタテラ」、大阪市「なんばパーク」。／10月

・世界グラフィックデザイン会議・名古屋が開催。／10月

・名古屋港・築地口、各国の貨物船の大型化に伴い、ガーデンふ頭への接岸がなくなり、ヨーロッパなどの外国船員が激減。海運会社の合理化で船員は低賃金のアジア系が増加。現在は技能修得で研修を受けに来る中国人が増加。築地口商店街のピークは1970年代。港湾労働者も沖合いにできた大型ふ頭へ移り、築地口への立ち寄りにはなくなった。'84年ポートビル完成。'86年築地ポートタウン21まちづくりの会立ち上げ。'89年世界デザイン博覧会の会場の一つになる。'91年築地ポートタウン計画、2007年の名古屋港開港100周年を目標に商業施設やマンションを誘致していく方針。'92年名古屋港水族館開館。これらの経緯の中、港の施設はにぎわっても、商店街に人は来なかった。また、再開発計画も、不況により立ち消えに。

・名古屋市住民の都心回帰が加速。高層マンション計画が攻勢をかける。／10月

・海辺の絶景を望む老舗公立美術館の新館「神奈川県立近代美術館・葉山館」と、都心の摩天楼の高層を陣取る私立美術館「森美術館」。今年10月、首都圏で対照的な2館が相次いで開館。／11月

・トヨタ自動車、2004年春から稼働する新系列「ネッツ店」から、TOYOTAの文字をはずすことに。新しいブランドイメージの浸透を目指す。／11月

・東京都、秋葉原の電気街の内容は、電子部品から家電・パソコン、最近はゲーム・アニメ関連へと変遷。転機は97年の「新世紀エヴァンゲリオン」のヒットであり、フィギュアなどの関連商品のブームによる。「萌え」文化。／11月

・名古屋市中区、長者町繊維問屋街、空きビルの再活性化プロジェクトが軌道に乗ってきた。「長者町まちづくりカンパニー」が空きビルを一括して借り上げ、全体コンセプトを決めてテナントを募集。女性や若者が集まる物販・飲食街を目指す。／11月

・中心市街の空洞化が叫ばれる中、春日井市鳥居松町で無線LANを使ったまちづくりの取り組みが行なわれている。地域限定の買い物情報の発信や商店主らの講座用など。／11月

・名古屋高速道路の料金、1年延期されていたが、値上げを2004年3月末までに実施。普通車は100円上がり750円、大型車は200円上がり1,500円に。債務返済を優先した結果。通行量は計画を下回っている。／12月

・名古屋市・名古屋港の空き倉庫を生かした芸術空間「アートポート」が、市制110年の'99年から5年間の活動を経て今年度に姿を消す。所有者の名古屋港管理組合は、2005年の愛知万博に合わせて、別の集客施設を整備する考え。／12月

屋外環境、景観関連(全国および東海・愛知県・名古屋市)

・国土交通省、「美(うま)し国政策大綱」をつくることを決定。景観についての政策大綱がつけられるのは初めて。歴史あるまち並みの保全や電線の地中化、道路や河川沿いの緑の整備、道路沿いの建物の外観統一などによって魅力ある景観を目指す。／1月

・横浜市・中華街、開港後に華僑が住みついて140年あまり。都市整備の空白地帯だった街を今年バリアフリー改造へ。電線の地中化、歩道と車道の段差解消、旧式の下水道設備の交換など。／1月

・無人店舗のATMを重機で壊す「破壊窃盗」が、2002年には前年の6倍の50件以上発生した。／1月

東京都墨田区向島地区、木造建築が密集する地区内では町工場が転廃業が続き、空き家が目立ち高齢化。機能をコンパクトに集約し、快適で安全な街を目指して、1999年に小淵内閣が打ち出した「経済新生対策」の中の「歩いて暮らせる街づくり」構想のモデル地区に応募し、選ばれた。大きな公共事業になることを期待していたら、アイデアと規制緩和が中心で多額の子算支出が必要ない事業と見なされ、各省庁も盛り上がり。2000年から本格的に動き出す予定だった構想は立ち消え状態に。墨田区には、警視庁によるスーパー防犯灯（緊急時にボタンを押すと周囲を録画）19基が設置されたのみ。／1月

・名古屋市の徳川園、愛知万博開催に向け再整備へ。神谷利徳氏が設計を担当。／2月

・愛知県豊橋市、地下工事の排水管等に使うコルゲート（波状）鉄板による円筒形住宅。寝かせて使えば、地中で50年、地上で100年の耐久性。／2月

・サントリー、4月にJR山手線内で電車の座席を広告にする「アドシート」を展開する。商品は「DAKARA」。小便小僧のキャラクター像を改札付近に設置したり、中吊り広告やステッカーもあわせて複合的に。／3月

・滋賀県近江八幡市内に、アメリカのキリスト教伝導師ウィリアム・ヴォーリスによる洋風建築が約20軒残っている。／3月

・横浜市で歴史的建造物の景観保全の動き。三菱銀行横浜中央支店、同支店の閉鎖に伴い、マンションが建設される計画だが、銀行の外観の特徴であった古代ギリシャ・イオニア様式円柱の外壁を再現することに。この他、旧横浜市外電話局の建物に横浜市発展記念館と横浜ユーラシア文化館がオープン。／3月

・地域の歴史的資源などを維持・継承することでまちの活性化につなげようという動き。京都市、町家の取り壊しに歯止めをかけるため、2002年10月、「伝統的景観保全に係る防火上の措置条例」を制定。通りに面した家の軒を木張りや土塗りの壁などにできることに。本年4月には、「まちなみ保全・再生のための新たな建築ルール」も施行される。住民の中からこうした動きが出てきている。京町家が注目され始めたのは1990年代。町衆から続く自治とまちづくりの蓄積が生かされ始めた。／3月

・制度や資金の壁に阻まれて危機に瀕している歴史的建造物。同潤会大塚女子アパート（東京都）、豊郷小学校（滋賀県）、旧正田邸（東京都）、長野県知事公舎など。相続税は現金納付が原則で、物納が認められた場合でも、現金化されて税収に充てられることになる。建物が取り壊される危機を回

避する例として、物納後に国から市へ有償で貸与することを検討している例もある。歴史的建造物の再利用については、その検討が進むような制度などの環境整備が弱く、その促進が望まれる。／4月

・彫刻家イサム・ノグチの作品が相次いで消えていく恐れが出てきた。東京・慶応義塾大学三田キャンパスの萬来舎ノグチ・ルームの彫刻作品。数グループが保存運動を展開。広島市・平和大橋、西平和大橋の欄干デザイン。市は橋を付け替える方針。／4月

・愛知県内の歴代洋風建築。名古屋市立大学教授・瀬口哲夫氏取材。加藤商会ビル（旧シャム領事館）、UFJ銀行貨幣資料館、蒲郡プリンスホテル、三菱自動車大江本館、ミツカングループ研究所、中塾クラブ、名古屋陶磁器会館、尾西繊維協会ビル、宇治山田駅、上天温泉、刈谷市郷土資料館、名古屋地方気象台、伊勢久と愛知県大津橋分室、明治屋名古屋栄スター。／4月

・東京都のシンボル、レインボーブリッジが原子力発電所の稼働停止による電力不足を懸念し、午前0時以降のライトアップを中止。／5月

・全国で平成に入って以降、天守閣や櫓など城郭の伝統的工法による復元が30ヶ所にのぼる。白石城（宮城県）、掛川城（静岡県）、新発田城（新潟県）、金沢城（石川県）、駿府城（静岡県）、白河小峰城（福島県）など。地域総合整備事業債制度の利用が多い。維持費がかかる公共施設の建設に比べ、文化財の復元の方が節約型のため。／5月

・小京都のネットワーク「全国京都会議」は1985年に26の市町で発足。加盟基準は、京都に似た街並み、歴史的なつながり、伝統産業・芸能があるなど3つの条件を1つ以上満たすこと。会員が増える一方、開発によって昔の街並みが減ったため脱会するケースもある。どの街もその保存対策が共通課題。金沢市、萩市、尾道市、津和野町、伊万里市、高山市、弘前市、遠野市、角館市、松前町など。／5月

・国土交通省、次年度国会に「都市公園緑地法案」を提出する方針。都市部のヒートアイランド現象の緩和や環境改善のため、大規模ビル建設時に敷地の20%以上の緑化（地上、屋上いずれでも可）を義務づける。緑化の比率によって、建物の容積率を上乘せする。／5月

・東京都・表参道、1927年に建設された同潤会アパートの建て替え。安藤忠雄氏の設計で2005年の完成を目指す。建物の大半を地下に埋め、地上はケヤキ並木の高さ以下に抑える構想。建物内にはアパートにあった中庭を想起させる公共空間をつくり出す。／5月

・名古屋市中区錦の**旧加藤商会ビル**。米輸入商社の事務所として建てられ、その後終戦まではシヤム(現在のタイ)領事館に使われた。建築学会の要請を受け、市整備公社が土地を取得し、建物は市に寄付された。2001年には国の有形文化財になった。市は2003年度に土地を取得し、補修を始める。現在、このビルに入るテナントを募集している。／5月

・建築家・**榎文彦氏の集大成2作**が完成。局面のガラス壁が120m続くアトリウムのテレビ朝日新本社(東京・六本木)、全長570mのガラスの回廊を持つ朱鷺メッセ(新潟)。いずれも都市スケールの画期的な公共空間を持つ。／5月

・6月22日の夏至の夜に、全国のライトアップ施設やオフィスビルなど2,000ヶ所以上で一斉に照明を落とした。**消灯キャンペーン「CO<sub>2</sub>削減・百万人の環**」を実施。／6月

・名古屋市では、2002年度から「**建築物等緑化助成制度**」を開始。屋上緑化、壁面緑化ともに対象としている。受け付けスタートとともに申し込みがいっぱいに。また、**屋上緑化ビジネス**が、首都圏、関西圏を中心に活気を帯びている。／6月

・**隈研吾選・東京のビルディング**「東京駅／辰野金吾設計」、「丸の内ビルディング／三菱地所、フラー建築会社設計」、「国会議事堂」、「リーダースダイジェスト東京支社／アントニン・レーモンド設計」、「霞ヶ関ビル」、「ヒルサイドテラス／榎文彦設計」、「中銀カプセルタワービル／黒川紀章設計」、「お茶の水スクエアA館／磯崎新設計」、「東京都庁舎／丹下健三設計」、「電通本社ビル／ジャン・ヌーバル設計」／7月

・**建物の再生が全国的なブーム**に。職人たちの技術の伝承がカギ。

・**自治体がマンションの高さ規制**に乗り出す。環境保護や景観配慮の観点から、高層建築を抑える方向へ。容積率の規制では、高層化に歯止めはかからず、「絶対高さ制限」を導入。／7月

・全国で屋上緑化、屋上農園、屋上ビオトープ、屋上ガーデニングなどが進む。／7月

・**瀬口哲夫選・街の記憶(大正～昭和初期に建設)**「名古屋市・東海学園講堂(旧制東海中学)／愛知県営繕課設計」、「碧南市・旧大浜警察署」、「豊田市青少年相談所」、「名古屋市・名古屋証券取引所」、「半田市・半田ミツカン工場4号醸造所」、「名古屋市・松坂屋名古屋本店」、「名古屋市・名古屋第一赤十字病院」、「名古屋市・南山学園ライネルス記念館」、「名古屋市・三井住友銀行上前津支店／トロブリッジ&リビングストーン建築事務所(アメリカ)設計」、「名古屋市・中北薬品京町支店」、「一宮市役所／松本善一郎前愛知県営繕課技師設計」、「名古屋市・UFJ銀行名古屋ビル別館／横

川工務所設計」、「岡崎市六供浄水場」／7月、9月

・愛知県**常滑市**・「**やきもの散歩道**」、来訪者は10年前のほぼ倍の60,000人を超える。NPO法人「タウンキーピングの会」が街づくりルールの協定案を2002年9月までに作成した。「建築物とそのまわりのしつらえ」「商工業を営む上でのルール」「期待する来訪者のルール」など。観光地化への懸念、地域住民の暮らしやすさといった声もあり、市の対応も揺れている。／7月

・**名古屋市納屋橋地区、再開発が進み変貌中**。川沿いにおしゃれなレストラン群が開店、喫茶店がリニューアル。シヤム総領事館として使われた旧加藤商会ビルは、タイ料理レストランとなって2005年春にオープン。／9月

・**名古屋市**、2005年の愛知万博に向け、**観光客の集まる駅周辺の違法広告物の撤去**を始める。愛知県は7月に改正屋外広告物条例を施行。撤去対象を拡大。／9月

・三洋電機、岐阜県内の新幹線沿いの工場内に、会社設立50周年記念として、ソーラーパネルを貼り合わせた**巨大モニュメント「ソーラーアーク**」を2002年4月に完成。

・名古屋市中心部で、**名古屋駅地区と栄地区の再開発を一体的に進める計画**が始動。7月に「広小路ネサンス推進協議会」が発足。名古屋広小路まちづくり協議会は「広小路フラワープロムナード構想」を打ち出した。／10月

・名古屋市千種区・**覚王山商店街**、'97年の「街づくり委員会」発足以来5年ほどで今昔あわせもつ種類の店、東南アジアの民族雑貨店などができ、活気づいている。日泰寺は日本とタイの友好を象徴する寺であり、これをもとにして、異国情緒を打ち出すことを目指している。／10月

・1990年代後半の東京「ヴィーナスフォート」、横浜「クイーンズスクエア」、2000年代に入ってから東京「六本木ヒルズ」、「シオサイト」など、**施設内は楽しいショッピングモールだが、いずれも自己完結型**。施設内で非日常を完遂するために外部との関係はきわめて希薄。景観への配慮への疑問視も。／11月

・映画やドラマのロケを誘致し、製作を支援する「**フィルム・コミッション**」。日本第1号から4年、現在では59団体に。人、金、需要不足で、早くも淘汰へ。きめ細かく機能させていく努力が必要。／11月

・国土交通省は今後の景観づくりの基本となる「**景観形成促進法**」(仮)を制定する方針。市町村は「景観形成地域」の指定ができる。定めた規制にあわない場合は市町村長が変更を命じることもでき、罰則も設ける。地域の合意で協定を結べば、等質的な規制をつくることもできる。／12月

## 2004年

全般(全国および東海・愛知県・名古屋市)

・トヨタ自動車、2003年の世界での自動車販売台数でゼネラルモーターズ(GM)に次ぐ2位に。／1月

・名古屋市瑞穂区・雁道商店街。典型的なシャッター商店街だが、インターネットカフェの開設や電動カートの貸し出しなど、活性化の実験を2月に行なう。／1月

・名古屋市中区・栄地区、三越北側の商業地を名古屋市と松坂屋が共同で再開発に乗り出す。1985年に両方で高層ビル建設を考えたが、地価高騰で一度頓挫。現在はジェトロの輸入車展示場に使われている。／1月

・トヨタ自動車などの元気さで、個人消費も底固い名古屋。中部国際空港の開港、愛知万博の開催など、ビッグプロジェクトも進行している。これに対して、全国2位の経済力の大阪は、企業の東京へのシフト、産業の空洞化などで自信が揺らいでいる。／1月

・高齢化や都市部のドーナツ化現象で、コンビニが地域の安全の一翼になっている。24時間営業体制で、深夜の店員数削減はできない状態。店舗数は飽和状態だが、ファミリーマート、セブンイレブン、ローソンの大手3社は手薄な地域への集中出店を進めている。業績好調の大手の寡占化がますます進む方向に。サークルK、サンクスなど中堅勢は再編機運が高まる。／2月

・人気ラーメン店を集めたテーマパーク、2003年だけで10以上が開業、全体では23施設に。回転率がよく、集客力安定。／2月

・中国人への観光ビザ発給の拡大を巡り、推進派の国土交通省に対して、治安悪化を懸念する警察庁や法務省が難色を示す。／2月

・医療、バイオ技術、環境保護などに東海・北陸の産学官連携構想はたくさんあるが、知財権や特許などによる「知の交流圏」という点では他地域に離されている。中部では、自動車その他の大企業の大量生産型の技術と中小企業のニーズがいまひとつかみあわない現状にある。／2月

・名古屋市内最大の商店街・大須に中華街(大須301ビル)、中古ブランド品専門店、質流れ品専門店(大須セブン)など新名所が続々オープン。

・大阪市、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン、3月末で開業4年目に入るが、筆頭株主である大阪市に資金援助を仰ぐなど、厳しい経済状況。今年、スパイダーマンの新アトラクションを

導入して入場者は好調だが、3年連続の赤字の見通し。／3月  
・名古屋名物が全国区に名乗りをあげている。パスタ・デ・ココ(あんかけパスタ)、矢場とん、ヴァレージヴァンガードなどが東京にオープン。2005年にはスガキヤが首都圏で新業態ラーメン店により勢力拡大を図る。／3月

・愛知万博開幕まであと1年。広告用に採用されたデザインがアメリカのイラストレーター、ノーマン・ロックウェル作品に酷似。万博協会と広告代理店は「類似とは考えておらず活用に問題はない」との見解。／3月

・横浜市、2月に地下鉄みなとみらい線が開通。この開通まではじり貧状態だった元町に、首都圏各地から中高年の女性が訪れ再ブームに。／4月

・愛知県ではモノづくりでデフレ下にあっても堅調な経済を持続している。企業流出やバブルの後遺症に悩む大阪府に迫る勢い。名古屋港は2003年までに貿易額3年連続日本一。市民の消費も旺盛。／4月

・3月開業の九州新幹線「つばめ」により、鹿児島～福岡間が2時間10分に。鹿児島、福岡、北九州などの都市部で百貨店が集客体勢に注力。／5月

・地域間較差の時代。青森県は製造業が少なく、公共事業は減少。有効求人倍率が下がっている。脱公共事業の取り組みとして、工業用地への企業誘致や農業の新分野開拓などを進めている。／5月

・東京都、銀座の晴海通や中央通がこの数年で海外ブランドが連なる「ブランドストリート」に変貌。海外ブランドの売り上げの30%を日本が担っているが、2001年の米国テロ以降、ヨーロッパの市場冷え込みもあり、より注目されるようになっていく。丸の内、日本橋でも新たな展開が見られる。秋葉原では2005年につばエクスプレスが開業予定。「クロスフィールド」をはじめとする一連の再開発が活発。／5月

・山梨県のリニアモーターカーの実験が8年目に。高速時の車内騒音や振動の解消が課題。また、リニア実用の舞台と見込まれている中央新幹線も、建設費の高さのため実現の道筋が見えてこない。／5月

・2003から'04年にかけて愛知県と群馬県が有効求人倍率の首位を争っている。自動車、電機業種の好調さによる。地元企業の活動の活発さを表わす指標といえる。／5月

・名古屋市の人口が6月に220万人を突破。1983年の210万人突破から20年7ヶ月かかった。

・東京都、秋葉原の家電量販店の閉店が相次いでいたが、中国からの観光客や留学生の増加に伴い、この層をターゲットにした店舗が大繁盛。2003年の中国観光客は約45万人で、

20年間に17倍になった。JR池袋駅北口、新大久保駅周辺なども同様の状況に。

・百貨店の総売上高は、バブル経済崩壊前の1988年以来16年ぶりに8兆円を割り込んだ。2001年をピークに下がり続けている。大型スーパーやコンビニの攻勢による。／5月

・経済産業省は、大規模小売店舗立地法の指針に、近年増加している**24時間スーパーは深夜の騒音・防犯対策に取り組むべきと盛り込む方針**。／6月

・マンガやアニメを町おこしや観光の核にしようとする事例が急増している。水木しげる記念館(鳥取県)、石ノ森章太郎ふるさと記念館(宮城県)、手塚治虫記念館(兵庫県)、アンパンマンミュージアム(高知県)など。施設来場がもたらす町への経済効果は大きい。／6月

・北海道札幌市・すすきの、企業や官公庁の交際費急減により、疲弊が著しい。6,000軒あった飲食店は4,000軒に減少。ビルの空室率も15%に。NPOによるまちの清掃ボランティアや土曜市、地元経済界による盛り上げイベントの開催などの動きが出てきた。／6月

・鳥取県米子市、商店主らの任意組織「わらい通り協議会」。有志が免許を取った市内の川めぐり観光船の運行、空き店舗利用の介護施設づくりなど、高齢者にやさしいまちづくりに取り組んでいる。／6月

・愛知県、中部国際空港開港・愛知万博開催という大型プロジェクトが終わった後の落ち込みを懸念する「**2005年問題**」が広がりがつつある。一方、中部の観光都市である高山市、熊野市などは、2台プロジェクトの恩恵を期待し、集客策にテコ入れ。／6月

・名古屋の各テレビ局は、自局のマスコットキャラクターグッズの販売に力を入れている。名古屋ならではの土産として注目されている。／6月

・UFJホールディングスと三菱東京ファイナンシャル・グループが経営統合へ。／7月

・名古屋市の中心地で分譲マンションの建設ラッシュ。銀行や企業が社宅跡地を手離し、土地確保が容易になったことや地価の下落などによる。5年前の倍の販売戸数になっている。／7月

・名古屋市、名古屋港ガーデンふ頭に「イタリア村」が登場する。居酒屋やホテルチェーンなどを展開する「セラヴィリゾート」が手がける。金城ふ頭には、スイスのアウトレットモール「フォックスタウン」が国外第1号店を計画。

・ダイエー栄店が24時間営業を計画。経営再建中のダイエーの増益策。周辺の中小店による商店街振興組合連合会は、

自店への圧迫や治安悪化を理由に反対。／7月

・愛知県豊橋市のファインモールドは、プラモデル技術で国内外の信頼を得ている。スタジオジブリ、ルーカスフィルム社などと契約を結んでいる。／7月

・名古屋市地下鉄名城線の環状化、あおなみ線の開通に伴い、市バス路線が大幅に改編。**地域巡回バス**が誕生。／7月  
・名古屋の注目企業。ヴィレッジヴァンガードは、天白区に1986年に1号店をオープン。書店+雑貨店の隙間を捉え、2004年には120億円を売り上げている。世界のやまちゃん、地元が飽和状態になり、首都圏へ出店攻勢をかけ、名古屋メニューを展開する計画。カレーのオリエンタルは1960年代にヒットしたが、'70年代以降他メーカーにおされ埋没。数年前から昭和30年代を懐かしむ風潮に乗り、再注目されている。／9月

・トヨタ自動車は2004年3月期の純利益は、前年同期比55%増の1兆1,620億円。**日本企業初の1兆円超えを達成**。世界の全企業の中でも、ベスト4位入り。販路拡大を求めて、アジア圏の開拓を目指す。韓国、中国へ新車種を投入する計画。／7月  
・最終処分場に埋められたゴミを掘り起こし、焼却や再資源化して埋め戻す事業が全国的に広がっている。限界が近づいている処分場の延命が目的。／9月

・名古屋市・栄地区の一等地(現在ジェトロの輸入車展示場)、地権者である名古屋市と松坂屋がこの土地の利用方法について、市民から募集する方向に。／10月

・東京都、国立新美術館が2007年に開館予定。美術団体が公募展開催施設について模索。日展、二科展は上野の東京都美術館から移動の方向。日本美術院(院展)は東京都美術館に残留を決定。／11月

・国内各地の映画祭開催。1990年代は、自治体が工場を誘致するかのように、その内容については外部に依存していた。近年は、地域文化を外部へ発信していく機会ととらえている。長野県・うえだ城下町映画祭(1997年～)、山口県・しものせき映画祭(2000年～)、福岡県・しんぐうシネマサミット(2004年～)など。／11月

・東海、東南海、南海の3地震が同時に起きると、上下水道管の破損は阪神大震災の6.8倍の80,600件に達すると、京都大学防災研究所が予測をまとめた。

・豊田市の実情。2000年～2002年にそごう、サティが相次いで閉店し、周辺は寂れた。商店街はかつての商売敵だったトヨタ生協の駅前ビル出店を最後のたのみに。／1966年にトヨタ自動車出身の佐藤保市長が「青少年健全育成都市宣言」。これが暗にプレッシャーとしてあり、ネオン街の発展を妨げてきた。／市内で定評のある「交通の流れの悪さ」。トヨタ自動

車は、工場周辺の渋滞緩和策として、豊田市駅からのシャトルバスを運行。／豊田市に隣接する藤岡町、2005年4月に豊田市との合併が見込まれている。豊田市寄りの南部の宅地開発で、人口が1980年の6,500人から19,200人に増加。大半がトヨタ自動車やその関連で働く子育て世代。町内唯一の中学校もマンモス化し、一部はそれを避けて豊田市の中学校へ越境通学している。／豊田市駅前商店街、経営不振、再開発事業、後継者不在で閉店が相次ぐ。市の工業は日本一だが、商業は脆弱。小売吸引力は0.89で、1以下の場合、市外への消費流出を示す。市は倒産した豊田そごうの債権買い取り、ビルの再開発、駅と大型店をつなぐデッキの造成、第三セクターの駐車場づくりなど支援を続けるが、「車の街」であるため手を抜くと中心街の空洞化が進む。／11月

・名古屋都心部でのマンション建設がさかん。2007年に名古屋駅前に豊田・毎日ビルが完成し、トヨタグループ社員が名古屋に集まることも当て込んでいる。また、市内の賃貸住宅からの住み替えが多い。セキュリティが容易なことが理由。郊外から都心への住み替えはこの地域では少ない。周辺都市では、一戸建ての意向が根強い。地下鉄名城線の環状化に伴い、昭和区八事地区の物件供給が多い。／11月

・愛知万博の**前売り入場券**が、今年内に万博協会の目標としていた800万枚を達成する見通し。ただし、その**80%は東海3県での売り上げ**。／12月

・**岐阜県の梶原拓知事**、来年2月に引退(4期16年)。道路整備などインフラの充実に注力。東海環状自動車道、ソフトピアジャパン、日本昭和村を含む平和記念公園など。一部には、利用度が少なく運営方法の見直しを迫られる「ハコモノ行政」として批判されるものも。／12月

・**石川県金沢市**、地方都市としては観光資源もあって活気があるが、市中心部のビルの空室率が目立つようになった。**都市機能の郊外分散**を防ぐため、魅力あるまちづくりの取り組みが始まっている。／12月

・トヨタ自動車の2003年度連結決算は17兆円で、過去最大。日系メーカー勢に押され、米国ビッグ3は深刻な状況に。また、6年ぶりに人事が一新され、**創業者一族が代表権**を持つことに。成長を続ける企業活力(「世界のTOYOTA」)と、それを束ねる求心力としての一族(「内なる豊田」)のバランスを絶妙にとることが、今後も持続していく上でのポイント。／12月

屋外環境、景観関連(全国および東海・愛知県・名古屋市)

・京都市、中心部を東西に貫く**御池通**を活性化し、市内一の

**シンボルロードにする構想**を1998年から整備している。市も、沿道での新築・建て替え時には1階部分の半分以上を店舗に使うよう定めた条例を、2004年度から施行することを目指している。／1月

・名古屋市、**笹島地区(JR名古屋駅南)の用途地域**を、準工業地域から商業地域に変更する方針を固めた。商業地としての再開発を本格化。／1月

・名古屋市観光コンベンションビューローは、「**なごや・ロケーション・ナビ**」の一環で、名古屋市役所を映画「**笑いの大学**」に提供。

・**路面電車**の良さを見直す動きが全国的に。低床新型車両の導入で、客足が伸びている。環境汚染対策としても、再認識される。／3月

・愛知万博は、3つのR(リデュース、リユース、リサイクル)を体现するイベントにすべく、**空中回廊型の通路、再利用可能な素材によるパビリオン**を建設する。／3月

・**名古屋市、堀川**。江戸時代初期の開削から400年。太平洋戦争時の空襲、伊勢湾台風の被害を経て、1989年の世界デザイン博で再生の機運が高まる。'98年ごろから地下鉄工事による湧き水の放水で、上流部に清流が戻ってきてから、市民運動が活発に。現在、堀川に関わる市民団体、経済団体は数十ある。最下流の木場町には「**名古屋港貯木場**」があったが、伊勢湾台風後に港西部に木材専用港ができた。また、東南アジア諸国が木材製品輸出国に転じて、これに太刀打ちできず合板製造が衰退。この20年ほどの間に高層マンション地区に変わった。国土交通省中部地方整備局などは、本年4月から庄内川からの導水を増量することにしている。／3月

・大阪府豊中市、住宅街にあるバス停留所。歩道幅が1.5mしかない危険な場所だった。停留所の位置を生花店前まで15m移動し、生花店が敷地の一部を開放したことで、歩道幅が事実上1m広がった。店先に鉢植えを多く並べ、バスを待つ間のミニスポットを生み出した。／4月

・**名古屋市、堀川では大正末期から汚染が始まった**といわれる。上流に工場や住宅が密集し、大量の排水が流れ込むようになった。1965年に名城下水処理場ができて一時水質はよくなったが、現在は窒素やリンを垂れ流す赤潮の発生源に。下水処理場の能力を超えた汚水はそのまま河川に流れこんでいる。3月に庄内川から導水を増量する通水式が行なわれた。汚水の濾過技術開発に産学の取り組みも進められている。／4月

・**名古屋市、堀川沿いに飲食店**が15~16軒相次いでオープン。東山ガーデンは1993年から堀川で**屋形船**を運行。／3月



・名古屋市、**名古屋港沖の埋め立て地「ポートアイランド」**。タンカーなどが停泊するふ頭として造成したが、30年たった現在でも利用のメドが立たない。中部国際空港のための埋め立て以降、名古屋港で発生する土砂の処分場が他になく、当面そのために活用せざるをえない状況。／4月

・京都駅ビルや東京国際フォーラム(1997年オープン)、など**巨大なガラス面が特徴の建築**。清掃作業の時間や手間がかかりコスト増に。そのため、汚れを分解する光触媒の塗料を使用したり、建材を採用。凝ったデザインほどこうした手当ての必要が大きい。／5月

・レストランやバーなどで、半透明の幕、透けないガラス、格子、すだれ、のれんなどで仕切られた半個室空間が増えている。ファッションビルなどでも、半透明な外観にすることで、閉鎖性を取り除く方向にある。／5月

・栃木県足利市、**NPO法人足利水土里(みどり)探偵団**が設立され、まちを流れる渡良瀬川の浄化、家庭ゴミの堆肥化に取り組んでいる。／6月

・名古屋市西区、堀川沿いの四間道と円頓寺商店街の活性化に向け、地元の人々による「**四間道歴史散歩の会**」が活動している。／6月

・香川県・直島、17年かけて安藤忠雄氏が手がけてきた美術館プロジェクトのひとつの完結となる「**地中美術館**」がオープン。金属精錬の影響で岩肌だらけになっていた島を緑に戻す活動のひとつ。／7月

・商品などの**大型立体模型を載せた広告トラック**が増加。ビルの高層化で看板が目立たなくなっていること、テレビの視聴率低下、テレビ広告の減少などによる。／8月

・三重県**伊勢市の内宮前の「おほらい町」**では、1970年代以降の観光客の激減に対して、「赤福」を中心に内宮前町開発委員会を発足。'91年に赤福本社(鉄筋コンクリート造)を、伊勢の伝統的な家屋建築である妻入りに建て替え、町全体の再生を進めた。'93年7月に27店舗による「**おかげ横丁**」をオープン。当初60万人程度の観光客は2003年に321万人に伸びた。／8月

・愛知県内の**文化財を所有する寺社の、大規模地震や火災に対する対策**が急がれている。耐震補強については、建物の耐震診断に補助がなく、対応を所有者にまかせている状態。国宝の犬山城(犬山市)、愛知県指定文化財の三明寺本堂(豊川市)、鳳来寺山山頂の東照宮(鳳来町)、重要文化財の龍照院。十一面観音菩薩像(蟹江町)、博物館明治村など。／9月

・岐阜県、**白川郷の合掌造り建築群**。1995年に世界文化遺

産に登録されて以来、観光客が大挙訪れるようになった。マナーの悪さや住民のプライバシー侵害などが問題に。／9月  
・東京都、JR国立駅から南に伸びる大学通り沿いに計画された**18階建てのマンションに対して住民の反対運動**が起こり、計画していた明和地所は14階建てに変更して2000年に着工。これに対して、住民が高さ20mを超える部分の撤去を求め訴訟を起こす。一審では、長年住民の努力によって生み出された良好な景観を認定し、他の地権者にもそれを守らせることのできる利益(**景観利益**)があるとして、建物の撤去という結論を出した。しかし、2004年の二審では、「景観は行政施策で保護されるもので、住民にその権利、利益はない」としてこの利益が否定され、住民が逆転敗訴。住民側はその後上告した。／11月

・2005年春に**堀川・納屋橋の南東のたもとにウッドデッキ風広場**ができる。屋台が軒を連ね、オープンスペースにテーブルが置かれる計画。／11月

・これまでに司法の場で明らかに認められるようになってきた「**眺望権**」。しかし、1992年の京都ホテル建設では、**景観侵害を取り除く「景観権」**が主張されたが、権利の内容が曖昧として却下された。／11月

・「**景観法**」が今年12月施行。自治体の景観計画に基づき建築物などに規制をかける新法。今年3月までに景観条例をつくったのは、27都道府県、470市町村。しかし、法的強制力はなかった。新法で首長が「デザインや色、高さが周囲に合わない」と判断すれば、建物などへ変更命令が出せる「景観計画区域」、より厳しいものは2005年6月施行の「景観地区」。地域のランドマークである建物を「景観重要建造物」に指定することで、建ぺい率の緩和や相続税軽減の支援することも。「景観美」という曖昧な基準によって私権を制限する劇薬にもなりうる。また、首長の裁量の幅も疑問が生まれるところ。景観計画を持つ自治体は10%程度。その理由として、「景観行政の特段の課題がない」が35%。景観法によって極端に規制することは難しいとしても、最低限の線を守るためのものに。／11月

・大阪市、**ミナミの道頓堀川**は名古屋市の堀川と同じ人工河川。今年12月に川沿いを整備したプロムナードが完成。水質汚染も激しかったが、その改善も進む。この川の汚染が最大の原因だったのは合流式の下水道。雨水と生活排水を1本の下水管で処理するため、大雨の際は汚水が川に流れこんだ。「平成の太閤下水」で巨大な地下トンネルをつくり、貯水して汚水の川への流れこみを止める仕組み。2007年の完成を目指す。／12月

・愛知県豊川市門前町。稲荷の表参道で昭和30年代のレトロ空間を再現する演出を始めた。「なつかし青春商店街」のアーチも完成。観光客が年々減少する中、毎月1回のいなり楽市を開催。客足が戻り始めた。／12月

・名古屋市、10月開業の第3セクター・名古屋臨海高速鉄道「あおなみ線」、名古屋市地下鉄名城線の環状化。ともに2ヶ月を経過。名城線は早速乗客を増やし、順調な滑り出し。対する「あおなみ線」は、見込みの1/3。定期券利用者が全体の1割程度(名古屋の他の鉄道では通常4~6割)。通勤の便利さにあわせた反応になっている。今後では、2005年の愛知万博でささしまライブ駅がサテライト会場になることや、翌春の定期券切り替え時期に期待。／12月

## 2005年

全般(全国および東海・愛知県・名古屋市)

・大型商業施設の出店が加速している。2004年中の売り場面積1万平方メートル超の出店は前年に比べ5割以上増え、100件を超えた。うち、イオングループを核としたものが1/4。逆風の経済状況がむしろ後押しして、単独店ではできない集客に期待。この多くは土地を安く取得できる郊外の農地や工場跡地への進出である。大店立地法で出店が「原則自由」になったことがこれを促している。／1月

・レンタルビデオ店の1店舗あたり会員数がこの3年で3割減少。低価格DVDの販売増加、CS放送やケーブルテレビの普及、映画館入場者数の増加などが影響。地方の中小チェーンはVHSビデオからDVDへの転換が遅れ、廃業が相次ぐ。大手のTSUTAYAやゲオも、横ばいもしくは減少。／1月

・小泉純一郎首相が進めてきた公共事業削減路線が曲がり角に。公共事業予算額をバブル崩壊以前の水準に戻す目標達成が近づいてきたため。削減について与党内には強い不満がある一方、人口減少時代を控え社会保障額を確保し、公共事業を増額すべきではないとの指摘も多い。／2月

・愛知県が本社の企業一敷島製パン、創業者の盛田善平が第一次大戦後のドイツ人捕虜を技師長に招き、半田の製粉所でパンづくりを始める。CoCo壺番屋、宗次夫婦が一宮市で始めた喫茶店がもと。矢場とん、どて鍋に串カツを浸して食べたのが発端。今年3月に東京・銀座に進出。スガキコシステムズ、「スガキヤ」を1999年に関東地区から撤退させて以来、5年ぶりに名古屋めしブームに乗って東京・高田馬場に出店。／1月

・愛知万博開幕、中部国際空港開業の年。名古屋市やその周辺都市に大型商業施設が次々誕生。ラバーモさしま(映画館、フットサル場)、サンシャイン栄(観覧車、ラーメンのテーマパーク)、ラシック(三越の専門店ビル)、アスナル金山(飲食店、専門店)、名古屋イタリア村(イタリアブランド店、飲食店)、土岐プレミアム・アウトレット(岐阜県土岐市)など。／2月

・愛知県・ラグーナ蒲郡、観光客の80%を東海三県と静岡県に依存。常滑沖の中部国際空港と蒲郡駅を結ぶ直行バス運行が始まり、遠方からの集客に期待。空港との間に高速船の運航が始まる伊勢志摩、中部有数の観光地である飛騨高山地区も空港開業に期待。一方、「中部に観光客が集まるのは万博の時だけ」「関心はトヨタのみで素通りされる」などの懸念も。／2月

・中部経済連合会は、低迷する伊勢志摩観光を盛り上げるため、日本の歴史・文化の拠点である京都・奈良を訪ね(この中には熊野古道も含め、「日本の神秘」をアピール)、伊勢志摩で宿泊、名古屋で買い物をして中部国際空港から出国するというトライアングル構想を打ち出した。／2月

・愛知万博のアクセス方法を検討する輸送対策協議会で、藤が丘駅での名古屋市営地下鉄から東部丘陵線(リニモ)に乗り換える際の乗客の滞留に懸念が集まる。この滞留は、両交通機関の輸送力の差が生み出す。／2月

・2004年12月の有効求人倍率で愛知県が1位(1.67倍)、群馬県が2位(1.39倍)。自動車産業の好調、愛知万博などの大型プロジェクト需要による。閉幕後の反動に懸念も。／2月

・愛知県、渥美半島の田原市。海風が吹き抜ける特性を生かし、「エコ・ガーデン・シティ構想」を進めている。2002年に市内の蔵王山山頂に風力発電機1基を稼働させたのをスタートに、沿岸部にも次々と建設され、本年3月には12基が稼働。また、愛知県内は、家庭の太陽光発電機設置数が全国トップクラス。設置費用は1件200~300万円で、自治体や新エネルギー財団の補助金が受けられる。／3月

・名古屋市、名古屋ボストン美術館を運営する名古屋国際芸術文化交流財団の理事長が、UFJ銀行名誉顧問の小笠原日出男氏に。同美術館は1999年に開館したが、経営難で20年分の寄付金40億円を3年で使い切った。2002年には地元企業から30億円の追加寄付金を集めている。／3月

・名古屋市、自動車産業の好調を背景に「日本一元気な都市」といわれている。愛知万博をバネに飛躍を図ろうとしている。名古屋駅には、トヨタ自動車の国内外の営業部が入居する「ミッドランドスクエア」が2007年に開業予定。2000年にできたJR名古屋セントラルタワーズとともに名古屋摩天楼を形

成。中部国際空港は万博開幕の1ヶ月前に常滑市沖に開港。関西国際空港、成田空港に次ぐ大型空港で、海外25都市、国内24都市を結ぶ国内初のハブ(乗り継ぎ)拠点を目指す。また、一大テーマパークのような商業施設も売り物の1つ。栄地区には本年9月に三越の専門店「ラシック」が開業。松坂屋名古屋店は2003年に南館を増床、北館の改装にも着手する。／3月

・3月、名古屋市の金山総合駅北口に複合商業施設「**アスナル金山**」がオープン。名古屋市と名古屋都市整備公社の共同事業。中部国際空港の玄関口となる同駅の周辺開発の起爆剤としたい考え。愛知万博を契機に「若者」を取り込める要素をつくり出すことを目指している。現在の中部経済の好調は、自動車産業、工作機械などの製造業と大型プロジェクト関連への投資による。後者は期間限定で終わってしまうものであり、その後の沈静化への危惧も指摘される。／3月

・名古屋市と財団法人名古屋国際センターは、2004年4月から「**1000人ホームステイボランティア事業**」を開始。外国人受け入れのホスト家庭を募った。登録した家庭は360世帯で、それ以前の3倍を超えた。／3月

・愛知万博、会場での飲食関連の売り上げ、マスコットキャラクター(**モリゾー、キッコロ**)のグッズの売り上げは、内覧会での反応から予想を上回りそう。飲食は弁当持ち込みが禁止されることによる。／3月

・2010年に訪日外国人旅行者を1000万人にする「**ビジット・ジャパン・キャンペーン**」がスタートして3年目。日本は、巨額の貿易黒字による貿易不均衡是正の一環として、日本人の海外旅行を奨励してきたが、日本経済が成熟期に入り内需拡大が望めなくなった。その中で浮上してきたのがこのキャンペーン。2004年には600万人を達成。本年は愛知万博もあり700万人に達する見込み。しかし、このツアー市場は韓国や台湾などの旅行社が独占。日本の旅行社は「利幅が少ない」との理由から消極的。／4月

・名古屋市栄地区の**大津通周辺**は、商業テナントの賃貸料が高騰。本年に入って、アップルストア、コーチ、ラシックなどが誕生し、**ブランド店の集積**が進んでいるため。1999年以降、ルイ・ヴィトン、ティファニー、プラダなどの開業、デパートの増床・改装などが相次ぐ。この秋にはこの地区にベネトンジャパンが開業。超一流ブランドは高額な賃料を出す、それ以外は採算を考へて厳しい反応も考えられる。／4月

・東海地域の企業の2005年3月期決算。最高益を更新したトヨタ自動車の波及効果もあり、製造業が好調。デンソー、オーヤマ、日本ガイシなど。**小売業は、消費者の低価格志向と競争**

**激化で苦戦**。カーマ、マックスバリュ中部など。／4月

・**シネマコンプレックス**は1993年の初登場から12年、この5月に宮崎県に開館して**全都道府県への進出**を果たした。スクリーン数全体の6割を超えるまでに成長した。大規模ショッピングセンターが集客のために誘致するケースが多い。しかし、すでに埼玉県内の激戦区では、この3月に全国初の閉館も出てきた。／5月

・タクシーの天井の社名灯のデザインが似ているとして、名古屋市内を営業範囲としているフジタクグループが宝交通(本社・名古屋市)に対し、使用の差し止め訴訟を起こした。デザインは横に長く、左端にマークを大きく置き、それに社名ロゴが続く。宝交通は「全く似ていない」と全面的に対決姿勢。／5月

・2004年の映画館入館者数は21年ぶりに1億7,000万人を突破。「ハウルの動く城」「ラストサムライ」などのヒット、シネマコンプレックスの普及による。**シネマコンプレックスは全スクリーンの6割**を占めるまでになった。

・**コンビニエンスストア**の2004年度の売上高は、全体で約7兆5,000億円。2003年度に対して3.4%の増。8兆円割れて低迷する百貨店と入れ替わる公算も。大手5社は、セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、サークルKサンクス、ミニストップで、5兆円相当。24時間体制の物販拠点、決済サービス拠点としての充実が進む。／7月

・**イオンとユニーが東海地域で陣取り合戦**。5月にイオンは名古屋市千種区にショッピングセンターをオープン、予想を2割上回る滑り出し。一方ユニーは、今春イオンの創業地である三重県四日市駅前へアピタを進出。愛知県は東京都と並ぶ激戦区で、**大型出店するしかない体力勝負の状況**。すでに店舗過剰といわれる。／7月

・**愛知万博がもたらす経済効果**は東海3県で1兆2,400億円と試算された。地元の製造業などが好調で、万博後も景気の落ち込みの心配はないとされた。万博入場者を2,000万人とすると、個人消費関連の効果は4,100億円にのぼる明るい見通し。／8月

・愛知万博の公式キャラクター「**モリゾー&キッコロ**」は、**イベント本番の3年前に誕生**した。4,000種類以上ある関連グッズの売り上げは、開幕年である本年3月の時点ですでに当初目標の600億円の達成のめどがつく。期間中も好調を維持し、閉幕時には800億円相当に。国内のキャラクタービジネス市場は1兆6,400億円。トップ3は「くまのプーさん」(ディズニー)、「ハローキティ」(サンリオ)、「ミッキー・マウス」(ディズニー)で、それぞれが100億円規模の売り上げだが、わずか3年でこれらに

次ぐ位置に駆け上がった。／9月

・万博での消費は過熱気味だったが、経済界では一時的な需要を当て込んだ過大投資はなかった。製造業の強さはそのまま維持され、反動不況はないだろう。万博を機に飛躍的に整った高速道路、鉄道、国際空港などインフラ網がこの自信の裏づけ。この好調時に東海経済の最大の弱点である閉鎖性を破り、外国企業との連携を進めるべきとの声も。／9月

・公立美術館、博物館の運営管理を民間企業が担う「指定管理者制度」。長崎歴史文化博物館でディスプレイ大手の乃村工芸社、兵庫県の芦屋市立美術博物館はNPO「芦屋ミュージアムマネジメント」が関わる。芦屋はNPOが担う初めてのケース。／10月

・地方行政の行き詰まりで、予算がカットされあえいでいる公立ミュージアム。東京都写真美術館は、資生堂名誉会長の福原義春氏を館長に招いて、5年前に比べ予算は25%カットされたが入場者数は倍になった。企画や展示内容の見直しが功を奏した。／10月

・東京と名古屋を中心に飲食店を展開するゼットン（稲本健一社長）、「同じ店は2つつくらない」という方針で、創業10年たらずで年商19億円の企業に。寺社の参道だった覚王山に10年前バーをつくったが、それがきっかけでこの地区は新しい街に変貌した。現在、徳川園、中部国際空港、アスナル金山、名古屋テレビ塔など、街のランドマークや公共施設に積極的に出店している。／10月

・名古屋市中心部にインテリアショップが急速に集積中。2004年3月にアクタス名古屋店開店。インテリア雑貨「フランフラン」を展開するバルズは、「BALS TOKYO」を10月に名古屋でオープン。「ザ・コンランショップ」は日本初の路面店を12月にオープン。丸井のインテリア専門店「インザルーム」、大塚家具の大型ショールームが2007年に市内にできる予定。「価格は高くても良い家具がほしい」というこだわり志向、高級志向が進みつつある。一方、従来型の婚礼家具はクローゼット収納など住宅事情の変化もあって激減。／10月

・10月の国勢調査で、日本の総人口が1億2,775万人で前年を下回ったことがわかった。1920年の調査開始以来、戦争の影響を受けた1945年を除いて初めてのことで、政府の予測より2年早い。世界の人口の順位では、ナイジェリアに抜かれて10位に。／12月

・名古屋市中区伏見で22年前に閉館した名画座「ミリオン座」がこの12月に復活。1950年の開館だったが、そのころの市の人口が100万人を回復したことによる命名。／12月

屋外環境、景観関連(全国および東海・愛知県・名古屋市)

・株式会社PAOS代表の中西元男氏が、35年にわたり写真で記録し続けた新宿副都心の高層都市の変化をまとめ発表した。「高度経済成長からバブル崩壊頃までにこの地の都市景観は発展し完成を見たが、1991年完成の東京都庁舎がそれを崩した。都市全体のバランスを壊す建物であった。」と中西氏。／1月

・愛知万博の会場全体をつなぐ空中回廊式遊歩道「グローバル・ループ」は、環境対応型としてつくられたが、ユニークな存在として注目を集めている。しかし、各国の展示館が集まる「グローバル・コモン」は、画一的な倉庫型の建物が並び、大掛かりな見本市会場のように魅力に欠ける。／1月

・名古屋市、納屋橋のたもとの旧加藤商会ビルが本格タイ料理店として本年1月に開店。タイでしょうゆを生産するヤマモリが名乗り出たことによる。(建物は2001年に国の登録有形文化財になっている。)／1月

・名古屋市東区に本年2月「文化のみち二葉館」(旧川上貞奴邸)が開館。市が名古屋城から徳川園までの白壁地区周辺を「文化のみち」として整備してきたことにちなむ。／1月

・奈良市、2003年の「屋外広告景観維持特区」の認定以来、特区内の違法広告を自治体が即時撤去することを可能にした。景観特区には、秋田、茨城、静岡などの6県、奈良、岐阜、倉敷の3市が認定されている。「景観法」(景観上重要な地区の建築物を規制)、「景観法の整備法」(屋外広告物法の改正を含む)、「都市緑地法」の3つを「景観緑三法」として、2004年12月に施行された。景観を損なう広告物の簡易撤去は特区以外でも可能になった。／3月

・神奈川県・真鶴町、「沿岸景観特別地区」で町が定める高さ10mの制限を超えるマンションの建設が計画された。計画の変更を求める住民に対して事業者は「条例には強制力がない」として対立。2004年末に施行された景観法に沿って、多くの自治体が条例強化に入った。／3月

・富山県・砺波平野の散居景観が危機に。2004年の台風により屋敷林の倒木被害が相次いだ。県は数年前から始めた屋敷林の維持管理費用の一部負担に加え、植樹の苗木の提供、木を弱らせないための打木指導などに乗り出した。／3月

・滋賀県・近江八幡市の八幡堀。安土桃山時代、城を囲む堀は琵琶湖につながる湖上交通の大動脈だったが、30数年前までは見放されヘドロやゴミで埋まっていた。地元の青年会議所が保存運動に乗り出し、1975年には進められつつあ

た埋め立て工事を中止するとともに、商家のまちなみ保存も進めた。今では、映画やドラマのロケ地にさかんに生かされている。／3月

・石川県**金沢市**、17の景観に関する条例を持っているが、本年4月に**18番目の「沿道景観形成条例」**を加えることになった。幹線道路沿いなどでの景観上好ましくない広告や建築物への勧告を行なう。同市には、2年前から事業者が提示した広告の配色を協議の上、変更したという事例がある。／3月

・京都市、**京町家**はメディアにもさかんに取り上げられ注目度が高いが、1998年に28,000軒あったものが2004年にはそのうちの13%が消えた。「**京都保存法**」に基づく「**歴史的風土特別保存地区**」も、財政難で多くの資金を投入できない状況。／3月

・**豊田市**、愛知万博向けの対策として、**国道248号線沿線**を「**広告景観地区**」に指定。看板の高さや壁面広告の面積の制限、広告旗の原則禁止などを打ち出した。しかし、旗を出したい意向の事業者は多く、徹底した実施については流動的。／3月

・名古屋市の「安全・安心で快適なまちなごや条例」の施行に伴い、3月17日から市内4地区(名古屋駅、栄、金山、藤が丘)で**路上禁煙地区**が指定された。／3月

・愛知万博の開幕にあわせ、大阪万博との比較・検証をする記事多数。大阪万博は戦後復興の端的な集約化。国民が戦後を生きぬき、高度経済成長を遂げたことを自己確認するモニュメント。開発第一主義の一種の隠蔽策とも。その後の万博もこの型の繰り返しだったが、愛知万博でこの流れを断ち切ろうという動きが初めて見られた。旧来の考え方の裂け目に立つイベントとなった。万博という形式の正念場に。／3月

・愛知万博の愛・地球広場のそばの小川は、飛び石づたいに渡れる設計だったが、開幕後ポールなどで閉鎖された。子ども、大人ともに川に落ちる人が出たため。／3月

・名古屋市、名古屋港ガーデンふ頭に本年3月「**名古屋港イタリア村**」がオープン。1950年代のベネチアの街並みを再現。イタリアのブランドショップとレストランからなる。名古屋港管理組合などによる再開業事業。リゾートホテルや飲食店を運営するセラヴィリゾートの子会社が建設。／3月

・JR名古屋駅南で**愛知万博のサテライト会場「デ・ラ・ファンタジア」**が3月に開幕。9月25日の閉幕までに300万人の来場を見込む。ポケットモンスターのテーマ、シネマコンプレックス、大型ディスコ、飲食店なども出店。／3月

・2005年日本国際博覧会(愛知万博、愛称=愛・地球博)、

日本で2度目の総合的な博覧会として3月25日に開幕。バブル崩壊後の日本で、「自然の叡智」をテーマに「環境」に光をあてる。1988年にオリンピック誘致でソウルに敗れて以来、地元政財界が地域の起爆剤として目をつけていた。まず開催することが主目的で、テーマは後づけで考え出された。／3月

・東京都・**銀座の大通り**、**40~50年前に建てられた建築物**が多く、31m以下の高さに揃っている。これまで新たにつくられるものも、この考え方に基づく「**銀座フィルター**」が働いて、周囲との釣り合いが考慮されてきた。しかし、2004年末に高層ビル計画が浮上するなど、最近はこのフィルター機能が低下してきている。／4月

・**ウィリアム・メレル・ヴォーリス**はアメリカからキリスト教伝導のために来日。滋賀県近江八幡市の高校で英語教師をしながら、建築家としても活躍。全1,700棟を手がけた。近江八幡市のヴォーリス記念病院の管理棟「**ツッカーハウス**」の建て替え計画が持ち上がり、財団法人日本ナショナルトラストを中心に反対運動が進められる。要望書が提出されたが、病院側は、「今さら変更できない」と対応していない。／5月

・札幌市の郊外に**イサム・ノグチ氏の遺作にして最大の作品となる「モエレ公園」**の全体が7月に完成する。芝生に覆われた大地に彫刻や巨大造形物が点在する公園である。魅力ある施設が少なかった東区で、ゴミ処分場の計画が持ち上がり住民が反対。「ゴミを埋め立てた後は公園化する」という同意を取り付けた。1988年にノグチ氏がこの土地に惚れこみ、公園デザインを引き受けた。建設費は250億円で、当初計画の倍にのぼる。今や市の観光の目玉となって、ゴールデンウィークには連日7,000人の人が訪れた。／5月

・**自宅の屋上やベランダで植栽して「屋上緑化」**を楽しむ人が増えている。多量の雨水にも対応した排水の仕組みができていなくて、水浸しになったり、環境に適していない樹木や草花を植えて枯らしてしまう例も。反対に異常に成長し荷重の問題や害虫の問題を引き起こす例もあり、新たな分野だけにトラブルも多い。／5月

・**名古屋城**、1945年5月の空襲で日本最大だった**天守閣**を焼失(1959年に復元される)。本年の愛知万博にあわせ、天守閣から降ろした**金のしゃちほこ**と、空襲で焼け落ちたしゃちほこでつくった金の茶釜が公開され、多くの人出でにぎわった。この空襲は、名古屋城の北東部5ヶ所へ520機以上のB29が焼夷弾を投下したというもの。東京空襲より多い過去最大の編隊。航空機のエンジン工場、電機工場などが目標だった。／5月

・愛知万博、4~5月の大型連休の10日間分で98万人来場。

日によって約6~15万人とばらつきがある。／5月

・**愛知万博のバビリオン建築**。トヨタグループ館はジャングルジムに覆われた巨大なタンク型。建築の地下材に使うC型鋼を加工せずに接合。壁材は樹脂素材を貼った再生紙で、再利用を徹底追及した。三井・東芝館は、工事現場で使われる単管がスタレのように建物を覆う。この上を水が滴り落ちることにより、打ち水効果が生まれる。外国館では、カラフルな六角形の陶磁器ブロックを組み上げる、伝統的な「セロシア（格子窓）工法」による外壁のスペイン館など。会場全体では、「テクノロジーを可視化する時代」だった大阪万博と比べ、「**再利用**」が**コンセプト**のものが多く、強い個性が出にくい。／6月

・**東京都板橋区のとときわ台**。70年前の1936年から分譲が始まった住宅地。直径10mのクルトサック（袋小路）、その裏の歩行者専用のフットパス（細い路地）、楕円形に街をめぐるプロムナード、道路脇の緑地（ロードベイ）など仕掛けが多い。「**最も美しく優美にデザインされた住宅地**」であったが、最近では宅地の細分化などでこれらの景観も激変しつつある。／7月

・**発光ダイオード（LED）を使う信号機**が急増している。強い日差しの中でも見やすく、省エネ効果も大きい。車両用信号でLED化された割合は、東京都内では2年前の6倍にあたる28.3%、全国では4倍の9.3%。／7月

・名古屋市の**夏のヒートアイランド対策として低熱性舗装**の検討を始めた。ガラスの材料で熱が伝わりやすい珪石をアスファルトに加え、熱を分散させる。道路が広く木陰が少ない名古屋市の中心部は熱がこもりやすい。2000年の市の平均気温は100年前より2.6度上昇。／7月

・愛知万博開幕直前の3月6日から運行を始めた**東部丘陵線（リニモ）**。磁気で浮上して走行するリニアモーターカー。名古屋市地下鉄東山線藤が丘一万博八草間の8.9kmを走る。万博期間中は、1日85,000人の乗車を見込んでいたが、10万人を超している。来場者の4割が利用。／8月

・滋賀県**近江八幡市は「水郷のまち」**。景観法に基づき、市北部の「西の湖」周辺を水郷風景ゾーンとして景観地区に指定。「**水郷風景計画**」を策定し、9月から施行。原則として建物の3階建てを禁止、風景にマッチしない派手な色彩も認めないこととした。景観法によるこうした策定は全国初。景観計画区域内での新築、建て替えでは、「外観部は木材、土、ヨシなどの自然素材を使い、自然景観になじむ色彩に」「屋根は傾斜を設け、いぶし瓦ぶきかヨシぶきを原則に」との基準に。／8月

・**景観法による景観計画を策定している都市**。千葉県市川市では、2003年、'04年に寺社が多い寺町地区で、景観まちづくりの住民検討会を開いた。今年1月に市長に提言を出し

た後は、市民団体「てらまち会」となり、街歩きの会を開いたり、案内板を設置。この動きをひとつのモデルとして景観計画の策定に生かしている。東京都江戸川区は、一之江境側親水公園の一部（20m長）を対象に「景観地区」として、新築、増改築建物の高さ制限、街になじむ色彩の規制を行なう。／8月  
・愛知万博についての海外メディアのコメント。「省エネ技術を見せることで、ハイテクと環境の繋がりがわかる」「万博は時代遅れという見方があったが、多くの人が楽しみ、感動し、視野を広げた」と評価するものもあれば、「閉幕後の再利用など会場の意義は認められるが、『自然の叡智』というテーマがどこまで理解されたかは疑問」というものも。また、外国語の案内の少なさ、トイレやレストランの大行列への批判の声も。／9月  
・**愛知万博は9月25日に閉幕**、入場者数は目標の1,500万人を大きく上回り2,200万人を超えた。つば科学博の2,033万人を抜き、大阪花博の2,312万人に匹敵する規模に。1997年、当時の経団連会長だった豊田章一郎トヨタ自動車名誉会長が万博協会会長に就任。トヨタグループあげてチケット販売他で万博を支援。トヨタグループ館も会場内の目玉施設になっていた。／9月

・愛知万博の総括記事。愛知万博は、**世論によって自然保護の観点から会場計画の変更をうながされた「戦後初」の万博**であった。世界各地についての啓蒙的なイベントだった万博は情報時代になってその意義はなくなった。国内でも他地域の関心は低く、大きな地方博といった印象だった。**中沢新一氏が掲げた「自然の叡智」というテーマ**は人と自然のダイナミックな関係を示唆していたが、「地球にやさしい」「自然に癒しを求める」といったレベルで捉えられるまでだった。万博を根本的に改革する機会であったはずだが、それはなされなかった。／9月

・茨城県水戸市、**水戸芸術館で日本のグラフィティを集めた展覧会**が開催されるのにあわせ、許可された市街地の壁面に全国38名のライターにより作品が描かれた。公共空間への落書きが芸術になるか。非合法なものが公認されたとき、そのエネルギーは継続されるか。受け取り方は様々。参加しなかった作家の中には、合法での制作を拒否した人もいた。／11月

・**広告パネル付きのバス停留所**、全国で設置が進んでいる。2003年の国土交通省と警察庁による規制緩和が直接のきっかけ。横浜市が2004年11月から、神戸市、名古屋市でも設置が始まっている。民間企業が広告掲出の収入を得て、清掃・補修の経費を負担する。これを展開するのは、フランスのJCDゥコーが三菱商事と設立したエムシードゥコー。海外で既に35ヶ国1,500都市で実施。この企業が担当省庁へ積極

的に説得にあたったことが、規制緩和へとつながった。この他、新しい交通広告の分野として登場しているものには、**ラッピングバス**(1996年のアトランタオリンピック会場で本格的に採用され始めた)、**トンネルCM**(東京メトロ銀座線・溜池山王一赤坂見附間のトンネル壁面にディスプレイボックスを見せる、サブメディア方式と呼ばれる手法)など。ラッピングバスは、東京都営バスが2000年から始めて、2004年度に広告収入が8億円に達し、バス事業は4年ぶりに黒字に。／11月

・愛知県、名鉄小牧駅から**桃花台ニュータウン**を結ぶ**新交通システム「桃花台線(愛称/ピーチライナー)」**。ニュータウンができて四半世紀を経過したが、桃花台線は巨額の累積赤字を抱えて、廃線の危機に直面している。「4万人規模のまち」というニュータウンの構想は、現在7割の28,000人とどまる。桃花台線が開業した1991年はバブル崩壊と重なり、また、2003年開通の名古屋市営地下鉄上飯田線ができるまでは名鉄とバスを乗り継ぐ不便さもあって、利用者数は予想を大きく下回った。ニュータウンの中心地にある桃花台センター駅周辺は、マイカー通勤者が多く、桃花台線への関心も薄い。／11月

・政府・与党は、床面積が1万平方メートルを超す**大型商業施設の郊外進出を規制**する都市計画法改正案を国会へ提案する方針。成立すれば、進出は中心市街の商業地域に限定される。「**シャッター街**」といわれる**中心地**の空洞化への対応策。都市計画法、中心市街地活性化法、大規模小売店舗立地法の改正を検討する自民党の「**まちづくり三法見直し検討ワーキングチーム**」がこの案を了承。しかし、郊外進出を進めてきた小売業は強く反発。／12月

・東京都・**銀座4丁目のメインストリートに人気の海外ブランドの大型店**が続々開店。コンピュータのアップルもアメリカ以外で初の直営店をここにオープン。シャネル銀座ビルディングは1年前、メゾンエルメスは4年前にオープンしている。バブルの最中だった1980年代にはなかった余地ができてきたことによる。進出地はダイエー所有のビルや金融機関の支店だったところ。周辺の日本橋、丸の内、汐留などは、超高層ビルによる再開発地区だが、これと比較すると銀座の表通りには56m以上のビルを建てさせないルールがあり、空がきれいに見渡せる。／12月

・滋賀県**長浜市、1989年開業の第三セクター「黒壁」**は、明治時代の銀行の黒しっくい塗りの洋館をシンボルとして、ガラス工芸品の製造販売を始めた。これをもとに衰退していた商店街をよみがえらせてきたが、観光客は2001年度から4年連続で200万人を上回った。今年度前半は愛知万博に人出を

奪われていたが、閉幕後はまた盛り返している。9月には**海洋堂と提携した「フィギュアミュージアム」**ができ、新たな呼び水となっている。現在の課題は、リピーター客の購買金額の下落に歯止めをかけること。商品のマンネリ化が主因となっている。／12月

・愛知万博を一過性のイベントに終わらせず、持続可能な社会の実現という理念を継承する動き。**EXPOエコマネー事業**は、環境に配慮した行動をするとポイントがたまり、植樹への寄付やエコ商品との交換ができるというもの。これを引き継ぐ拠点が名古屋市内に再オープン。また、**会場跡地は愛知県が再整備**して、万博の理念を継承する形で2006年夏から開業。／12月

## まとめ

前半のまとめとして、2001―05年に見られた屋外環境、景観関連を中心に特徴的なものを取り上げておきたい。

### ●施策など

- ・都心回帰、都市再生を目指して、大学や工場をかつては郊外に振り向けていた「工業等制限法」「工場等制限法」を見直し。大型商業施設の郊外進出を規制する都市計画法の改正の動き。
- ・マナーに関わる制度。路上喫煙禁止条例の制定や悪質な違反に対する罰則を引き上げた改正道路交通法の施行。
- ・各地の特徴的な景観を守り生かすための制度や事業。北九州市・下関市の関門景観、琵琶湖の水辺、京都の町家、神奈川県真鶴町の沿岸景観、滋賀県近江八幡市の水郷風景、各地の城郭の伝統的工法による復元など。
- ・環境保護のための制度や事業。敷地の20%以上緑化の都市公園緑地法案、東京都による新改築のビルへの屋上緑化の義務づけ、名古屋市の建築物等緑化助成制度、最終処分場に埋められたゴミを掘り起こし、焼却や再資源化して埋め戻す事業など。
- ・「景観法」の施行。それまでの景観条例には、法的強制力はなかったが、新法で首長が不相当と判断すれば、建物などへ変更命令が出せる「景観計画区域」、「景観地区」。また、「景観重要建造物」に指定することで、建ぺい率の緩和や相続税軽減の支援をすることも。「景観法」(景観上重要な地区の建築物を規制)、「景観法の整備法」(屋外広告物法の改正を含む)、「都市緑地法」の3つで「景観緑三法」。自治体の対応の状況としては、景観計画を持つところは非常に少なく、「景観行政の特段の課題がない」が大きな理由。
- ・マンガやアニメをテーマにしたり、フィルムコミッション事業や映画祭の開催などを、町おこしや観光の核にしようとする都市。
- ・国立の美術館の運営・管理を行なう「独立行政法人国立美

術館」が発足。公立美術館、博物館の運営管理を民間企業が担う「指定管理者制度」が施行。

### ●民間

- ・定着した新業態のその後。コンビニエンスストア、AVソフトのレンタル・販売店、シネマコンプレックスなど。外食産業は、創業者に代わり次の世代への移行がカギ。
- ・テーマパーク。開業20年を超えたディズニーランド。東京ディズニーシーの新設。ユニバーサルスタジオジャパン(大阪)、ラグーナ蒲郡(愛知)、ハウステンボス(長崎)の苦戦。ラーメン、餃子、地域の名物などの「食」のテーマパークが続出。
- ・大規模小売店舗の増加。飲食店、スポーツクラブ、シネマコンプレックスなどとの複合化。百貨店の経営統合。
- ・屋外広告不況。幹線道路沿いの空洞化。たばこ広告は、規制が強化される。新種の屋外広告には、バスや鉄道車両へのラッピング、電車の座席を広告にするアドシート、商品などの大型立体模型を載せた広告トラック、広告パネル付きのバス停留所、地下鉄のトンネルCMなど。
- ・都心部でマンション建設ラッシュ。住居の都心回帰の意識が高まる。建築の高層化も進む。一方、築30年以上の老朽化マンションが今後急増。
- ・マンションの建設ラッシュや高層化に対して、市民が反対運動を起し、「景観権」「景観利益」を巡り裁判で争う。
- ・巨大なガラス面が特徴の建築とその実情。
- ・東京都・銀座の大通り、40～50年前に建てられた建築物が多く、これまでは31m以下の高さに揃える「銀座フィルター」が機能。
- ・デザインの洗練度を重視した家電の登場。
- ・屋上緑化ビジネス(緑化、屋上農園、屋上ビオトープ、屋上ガーデンなど)。
- ・歴史的建造物を維持させる上で、現金納付が原則の相続税などが重荷。

### 参考文献

- ・朝日新聞(2001～05年の国内外の社会・経済関連、都市景観関連他の記事より)
- ・日本経済新聞(2001～05年の国内外の社会・経済関連、都市景観関連他の記事より)